

(案)

公立大学法人長岡造形大学

令和4年度 業務実績に関する評価書

長岡市公立大学法人評価委員会

目 次

I	令和4年度の業務実績評価について	1
II	評価結果	
1	全体評価	3
2	大項目別評価	5
3	事業単位・指標単位評価	14
III	参考資料	
1	公立大学法人長岡造形大学第2期中期目標（令和2年度～令和7年度）	36
2	公立大学法人長岡造形大学 業務実績評価（年度評価）実施要領	40

I 令和4年度の業務実績評価について

長岡市公立大学法人評価委員会は、「公立大学法人長岡造形大学 各事業年度の業務実績評価（年度評価）実施要領」に基づき、公立大学法人長岡造形大学（以下、「法人」という。）の令和4年度における業務の実績に関する評価を行った。

令和2年度から令和7年度までの第2期中期計画の3年目の業務実績の評価に当たり、全体に関わる特殊事情として、令和元年度終盤から始まった新型コロナウイルス感染症のまん延がもたらしているコロナ禍の様態を考慮する必要がある。

新しい生活様式になって3年が経過する中で、感染症対策の徹底は継続したうえで、教員と学生のつながり、学生同士のつながり、本学と地域社会とのつながりを積極的に活かして、教育研究活動、学生支援、地域貢献、業務運営の全ての分野でこれまでの経験と知見を踏まえながらさらなる価値創造に努めてきたことに対して評価を行ったところである。

1 評価に関する基本的な考え方

- (1) 評価は、教育研究の特性、自主性、自律性に配慮しつつ、法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況を踏まえ、法人の業務実績全体について総合的に行う。
- (3) 評価は、一連の過程を通じて、法人の状況を分かりやすく示し、社会への説明責任を果たすものとする。
- (4) 評価は、法人が自主的に行う組織・業務全般の見直しや次期中期目標・中期計画の検討に資するものとする。
- (5) 評価にかかる業務が法人の過度の負担とならないように留意する。
- (6) 評価の仕組みについては、必要に応じて工夫・改善を行う。

2 評価方法

業務実績評価は、「全体評価」、「大項目別評価」、「事業単位・指標単位評価」により行った。

・全体評価

大項目別評価及び事業単位・指標単位評価の結果を踏まえ、法人の中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価を行った。

- ・大項目別評価

事業単位・指標単位評価の結果を踏まえ、4つの大項目ごとに、中期計画の進捗状況について評価を行った。

- ・事業単位・指標単位評価

年度計画に記載された事項ごと（事業単位）及び評価指標ごと（指標単位）の実施状況または達成状況を確認し、評価を行った。

II 評価結果

1 全体評価

(1) 評価結果

中期計画の進捗は順調である

(2) 評価理由

大項目（4区分）別評価の「第1 教育に関する目標」、「第2 研究に関する目標」及び「第3 地域貢献に関する目標」については、令和4年度業務実績で年度計画を上回る取組が多く認められた点などを総合的に勘案し『A 中期計画の進捗は順調』と判断した。

「第4 業務運営等に関する目標」については、令和4年度の取組の多くが年度計画通りに実施されていることなどを総合的に勘案し、『B 中期計画の進捗は概ね順調』と判断した。

以上のことから、大項目別評価の全てが「B 中期計画の進捗は概ね順調」以上であり、かつ3区分が「A 中期計画の進捗は順調」となっていることに加え、教育研究組織の見直しに関する基本方針に基づき策定した造形学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を踏まえ、令和5年度以降入学者カリキュラムを検討・整備したことなどを総合的に勘案し、(1)の評価が相当と判断した。

大項目別評価						
大項目（4区分）	評価結果	S 中期計画の進捗は優れて順調	A 中期計画の進捗は順調	B 中期計画の進捗は概ね順調	C 中期計画の進捗はやや遅れている	D 中期計画の進捗は遅れている
第1 教育に関する目標	A		○			
第2 研究に関する目標	A		○			
第3 地域貢献に関する目標	A		○			
第4 業務運営等に関する目標	B			○		

(3) 令和4年度の特筆すべき取組

【第1 教育に関する目標】

・教育の成果、内容に関する取組

これからの時代の流れを的確に捉え、創造力を備えた人材を輩出するために重要となる3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を踏まえ、令和5年度以降入学者カリキュラムを検討・整備した。

対面及びオンライン両形態でのオープンキャンパスの実施や受験生を対象とするオンライン説明会を実施するなど、コロナ渦であっても実施手法を工夫することで、

より多くの学生に大学を知る機会を提供し、積極的な広報活動を行っている。その結果、5.38倍という高い志願倍率を維持している。

・教育の実施体制に関する取組

令和5年度の学科再編や新たなカリキュラムを踏まえ、学生が能動的に学修する演習にフレキシブルに対応できるよう教室や什器等の環境を整備している。機能性と意匠性を考慮し開発された多様な什器の設置は、学生が日常的に使用感を試すことや新たな使い方を模索することなど、教材としても活用され、「キャンパスまるごとデザインの教材」というコンセプトを体現している。

・学生支援に関する取組

コロナ禍でより複雑化した個々の悩みに寄り添うため、カウンセラー、学生支援課及び修学特別支援室による情報共有の回数を前年度の約3倍に増やした。

その結果、相談者個々の状況や特性、緊急性や対応時の注意点などをタイムリーに共有し、学生に最適と思われる支援を遅滞なく提供できる体制が整備された。

また、SOGI（性的指向・性自認）の多様性に係るガイドラインを策定し、一人ひとりが多様性を尊重され、自分らしく安心して修学できる環境づくりに努めている。

【第2 研究に関する目標】

・研究の内容及び水準に関する取組

地域課題解決に向けた研究や事業化を支援する大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等により、能動的な企業への働きかけを行っている。その結果、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめ、今後の研究等につなげている。

【第3 地域貢献に関する目標】

・産業振興に関する取組

他大学、関係団体と連携して産学マッチングイベント Matching HUB nagaoka を初めて開催し、産学マッチングを促進した。能動的な企業への働きかけの結果、共同開発に関する相談が4件あるなど、今後につながる成果をあげている。

・地域貢献の成果に関する取組

地域貢献に関する研究・プロジェクト数については、目標値（25件）を大幅に上回る43件であった。

大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等による能動的な企業への働きかけにより、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめたことの成果。

【第4 業務運営等に関する目標】

・自己点検・評価及び情報公開の推進に関する取組

ホームページや各種SNSを積極的に活用し、大学に関する情報を幅広く発信している。「NIDFocus」では教員、学生や卒業生の活躍の様子、学生の作品、大学施設などの大学の魅力1つ1つに焦点をあて、写真やインタビューなども交えた伝わりやすく効果的な発信をしている。結果として、ホームページアクセス数、ユーザー数ともに増加するという成果をあげている。

2 大項目別評価

第1 教育に関する目標

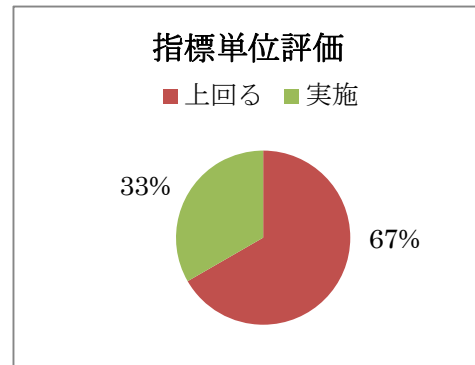
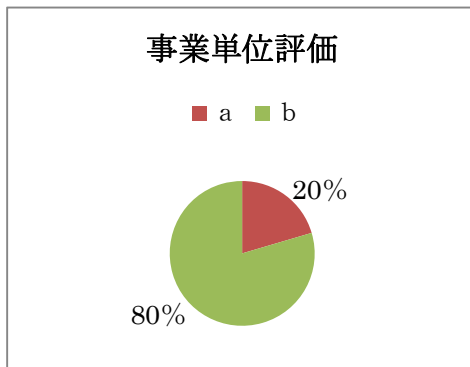
A	中期計画の進捗は順調
---	------------

(1) 評価理由

事業単位評価の44項目のうち、35項目がb評価（年度計画を実施）であったのに加え、9項目がa評価（年度計画を上回る）であった。

指標単位評価の3項目のうち、1項目が年度計画を概ね実施であったのに加え、2項目が年度計画を上回る評価であった。

よって、当年度の実績を総合的に勘案すると、A評価（中期計画の進捗は順調）が相当である。



事業単位 評価結果	評定	s	a	b	c	d
	評価の目安	特に優れる 若しくは顕 著な成果	上回る	年度計画を 実施	下回る若し くは実施が 不十分	特に劣る若 しくは実施 せず
	項目数 44		9 (20%)	35 (80%)		

指標単位 評価結果	評定	年度計画 を大幅に 上回る	年度計画 を上回る	年度計画 を概ね実 施	年度計画 を十分に 実施せず	年度計画 を大幅に 下回る
	評価の目安	100%超かつ 顕著な成果	100%超	80%以上 100%以下	60%以上 80%未満	60%未満
	項目数 3		2 (67%)	1 (33%)		

(2) 概況

○教育の成果、内容に関する目標を達成するための措置

- ・学修者本位の教育への転換を図ること、これまでの教育内容を土台とし、学びの意思のもと興味や意欲をもって学修できること及びこれからの流動的な社会状況に柔軟に対応できる力を身に付けることを主なコンセプトとして、これからの時代の流れを的確に捉え、創造力を備えた人材を輩出するために重要となる3つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れ方針）を踏まえ、令和5年度以降入学者カリキュラムを検討・整備した。
 - ・対面及びオンライン両形態で高校及び予備校内での対面型進学相談会等に積極的に参加し、一般選抜では前年を上回る志願者を確保し、高い志願倍率を維持している。
- また、広報プロジェクトチームと入試委員会が連携して総合パンフレットを造形学部学科再編に対応したものに全面改訂し、英語版とともに発行した。

- ・対面及びオンライン両形態でのオープンキャンパスの実施や受験生を対象とするオンライン説明会を実施するなど、コロナ渦であっても実施手法を工夫することで、より多くの学生に大学を知る機会を提供し、積極的な広報活動を行っている。その結果、5.38倍という高い志願倍率を維持している。
- ・「地域協創演習」では地域課題等の解決に取り組む14のプロジェクトを実施し、感染防止対策を徹底したうえで、対面とオンラインを併用して昨年度より多くの学生が参加することができた。また、チームで考案した起業プランを産学マッチングイベント Matching HUB nagaoka のビジネスプランコンテストで発表した。

○教育の実施体制に関する目標を達成するための措置

- ・令和5年度の学科再編や新たなカリキュラムを踏まえ、学生が能動的に学修する演習にフレキシブルに対応できるよう教室や什器等の環境を整備している。機能性と意匠性を考慮し開発された多様な什器の設置は、学生が日常的に使用感を試すことや新たな使い方を模索することなど、教材としても活用され、「キャンパスまるごとデザインの教材」というコンセプトを体現している。
- ・アドビクリエイティブクラウド等を継続して無料提供し、遠隔での授業の受講や場所を問わない制作活動で最大限活用できるよう支援している。
プロトタイプングルームでは3Dスキャナの導入により立体造形物のデータ化が容易となり、出力表現する工程まで一貫してできるようになったことで学生の制作の幅が広がった。また、学生スタッフが職員と協働で管理・運営をしており、学科や学年を超えた学生が互いに高め合える場として定着し、利用率が昨年度の約2倍に拡大している。

○学生への支援に関する目標を達成するための措置

- ・コロナ渦でより複雑化した個々の悩みに寄り添うため、カウンセラー、学生支援課及び修学特別支援室による情報共有の回数を前年度の約3倍に増やした。
その結果、相談者個々の状況や特性、緊急性や対応時の注意点などをタイムリーに共有し、学生に最適と思われる支援を遅滞なく提供できる体制が整備された。
また、SOGI（性的指向・性自認）の多様性に係るガイドラインを策定し、一人ひとりが多様性を尊重され、自分らしく安心して修学できる環境づくりに努めている。
- ・高等教育の修学支援新制度に基づく授業料等減免等、各種制度の情報発信を積極的に行い、適切に制度を活用することで、学生が安心して修学できる環境づくりに寄与した。
また、オープンキャンパスの補助や図書館事務など学内で学生が働く場を生み出し、学生の経済的な支援をしながら学生が自ら大学の魅力づくりに携わることのできる仕組みづくりをしている。
学生アイデアコンペでの受賞アイデアの実現支援は、学生の自主的な活動を促し、モチベーションアップにつながっている。受賞アイデア2件を実現したほか、昨年度受賞アイデア「おさがりラック」は単発で終わらせず2年目も継続して実施し、学内で定着した取り組みになっている。
- ・就職活動支援では、ポートフォリオプレゼン作成講座等の回数を前年度より増やし、支援の拡充を図っている。
また、ポートフォリオプレゼン会では就職内定者のプレゼンを聴くだけではなく、3年生が作成したポートフォリオをプレゼンし、内定者から直接指導を受ける時間を設けた。内定者から作成ポイントやプレゼン方法を直接指導してもらうことで就職活動につながる、より実践的な学びとなるよう工夫している。

また、企業デザイナーによるポートフォリオ指導では、企業の第一線で働く卒業生から直接指導を受けることで志望する業界や企業のニーズを知ることができ、学生の就職活動、キャリアデザインの支援となっている。

○国際化に関する目標を達成するための措置

- ・国際交流協定締結校との事業を再開し、ハワイ大学建築学部とのピースメモリアルワークショップやトリアー応用科学大学への派遣を行った。

また、国際交流事業支援奨学金の活用や学内で留学生による母国紹介等のイベント実施、情報提供を行うことで、学生の自主的な海外活動の推進に向けた取組を続けている。

○教育の成果に関する指標

- ・志願倍率については、目標値（3倍）を上回る5.38倍であった。
- ・授業評価アンケートの結果、学生の授業内容満足度については、目標値（5段階評価の4）を上回る4.54（年間平均）であった。

第2 研究に関する目標

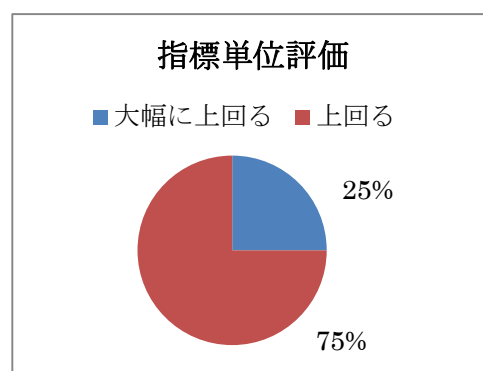
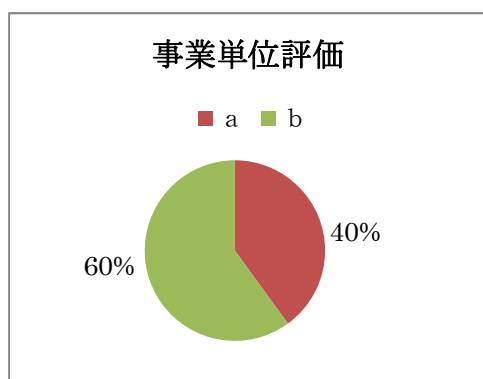
A	中期計画の進捗は順調
---	------------

(1) 評価理由

事業単位評価の10項目のうち、6項目がb評価（年度計画を実施）であったのに加え、4項目がa評価（年度計画を上回る）であった。

指標単位評価の4項目のうち、3項目が年度計画を上回る評価であったのに加え、1項目が年度計画を大幅に上回る評価であった。

当年度の実績を総合的に勘案すると、A評価（中期計画の進捗は順調）が相当である。



事業単位 評価結果	評定	s	a	b	c	d
	評価の目安	特に優れる 若しくは顕 著な成果	上回る	年度計画を 実施	下回る若し くは実施が 不十分	特に劣る若 しくは実施 せず
	項目数 10		4 (40%)	6 (60%)		

指標単位 評価結果	評定	年度計画 を大幅に 上回る	年度計画 を上回る	年度計画 を概ね実 施	年度計画 を十分に 実施せず	年度計画 を大幅に 下回る
	評価の目安	100%超かつ 顕著な成果	100%超	80%以上 100%以下	60%以上 80%未満	60%未満
	項目数 4	1 (25%)	3 (75%)			

(2) 概況

○研究の内容及び水準に関する目標を達成するための措置

- ・地域課題解決に向けた研究や事業化を支援する大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等により、能動的な企業への働きかけを行っている。その結果、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめ、今後の研究等につなげている。

○研究の成果に関する目標を達成するための措置

- ・一般来場者の入場も可能となった3年ぶりの卒業・修了研究展の開催に向け、在学生が卒業生から展示ノウハウを学ぶ機会を設けた。その結果、展示の質の向上や円滑な展示作業につながり、過去10

年で最大の来場者数となった。

また、ヴァーチャル展の実施や初めて博士（後期）課程の学外展示に取り組むなど、複数の手段により作品、研究成果を積極的に発信している。

○研究の実施体制に関する目標を達成するための措置

- ・地域課題解決に向けた研究や事業化を支援する大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等により、能動的な企業への働きかけを行っている。その結果、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめ、今後の研究等につなげている。
また、長岡工業高等専門学校との合同授業では、専門分野の異なる学生の混成チームで「ミミズを活用した持続可能性社会の提案と実装」をテーマに演習・発表を行った。学生それぞれの専門性を活かしながらデザイン思考を基にSDGsへの貢献やイノベーションを創出できる起業家マインドを育成した。
- ・「米百俵プレイス ミライエ長岡」で子どもラボの取組の試行として「子ども未来ラボ デザイン思考ワークショップ」を長岡市と連携して実施した。

○教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置

- ・令和5年度からの学科再編、新たなカリキュラムの編成について文部科学省への届出を完了するとともに、入学者カリキュラムの運営に向けてカリキュラム表、シラバス、モデルカリキュラムの作成等を行なった。
- ・第4アトリエ棟（仮称）等整備基本計画に基づき、令和6年秋に供用開始する新校舎の基本設計及び実施設計を完了し、既存校舎については教室・備品を中心に段階的な整備を実施した。

○研究の成果に関する指標

- ・地域貢献に関する研究・プロジェクト数については、目標値（25件）を大幅に上回る43件であった。大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等による能動的な企業への働きかけにより、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめたことの成果。
- ・大学として実施した研究成果の発表件数については、目標値（10件）を上回る13件であった。
- ・外部研究資金の申請件数については、目標値（15件）を上回る18件であった。
- ・外部研究資金の獲得件数については、目標値（5件）を上回る10件であった。

第3 地域貢献に関する目標

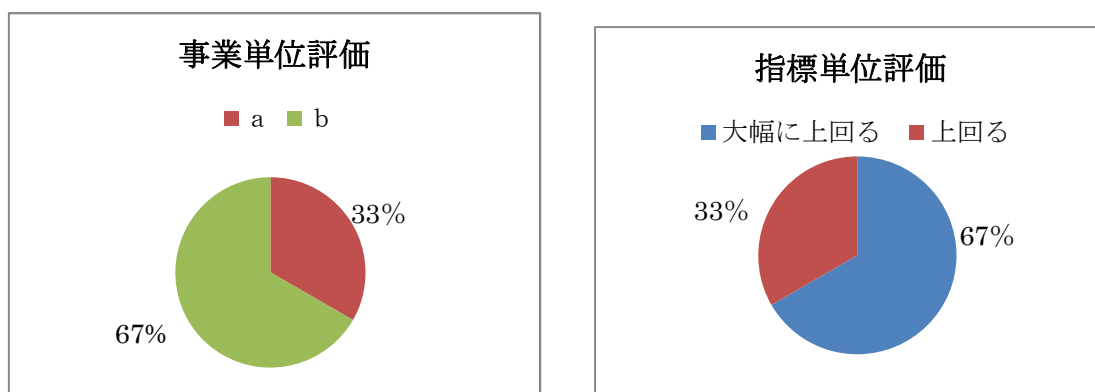
A	中期計画の進捗は順調
---	------------

(1) 評価理由

事業単位評価の12項目のうち、8項目がb評価（年度計画を実施）であったのに加え、4項目がa評価（年度計画を上回る）であった。

指標単位評価では、3項目のうち、1項目が年度計画を上回る評価であったのに加え、2項目が年度計画を大幅に上回る評価であった。

当年度の実績を総合的に勘案すると、A評価（中期計画の進捗は順調）が相当である。



事業単位 評価結果	評定	s	a	b	c	d
	評価の目安	特に優れる 若しくは顕 著な成果	上回る	年度計画を 実施	下回る若し くは実施が 不十分	特に劣る若 しくは実施 せず
	項目数 12		4 (33%)	8 (67%)		

指標単位 評価結果	評定	年度計画 を大幅に 上回る	年度計画 を上回る	年度計画 を概ね実 施	年度計画 を十分に 実施せず	年度計画 を大幅に 下回る
	評価の目安	100%超かつ 顕著な成果	100%超	80%以上 100%以下	60%以上 80%未満	60%未満
	項目数 3	2 (67%)	1 (33%)			

(2) 概況

○地域社会との連携に関する目標を達成するための措置

- ・地域課題解決に向けた研究や事業化を支援する大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等により、能動的な企業への働きかけを行っている。その結果、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめ、今後の研究等につなげている。
- ・こどもものづくり大学校では、オンラインで1講座15人程度の受講を計画していたものを、感染対策を徹底したうえで、対面により1講座20人に拡大して実施した。また、アーカイブ動画をホームページに掲載することでさらに多くの小学生に学ぶ機会を提供している。

中学生向け講座は、既存の講座を見直し、大学の幅広い教育分野を提供すること及びより中学生の興味関心の高い内容とすることを目的に、事前ヒアリングを基に1から講座内容をつくりあげる工夫をしている。

- ・長岡市、諸団体との連携により、幅広い世代のデザインを学ぶ機会の創出に寄与している。
「米百俵未来塾」のデザイン思考ワークショップでは、「他者と協力をしながら解決する」という内容が好評となり、令和5年度も同内容でのワークショップ開催が決まるなど、デザインの学びに関しての地域貢献を継続して実施している。
また、産業創造連携協定を結んでいるKDDI株式会社と連携し、プログラミング言語「IchigoJam BASIC」を使ったオリジナルゲームづくり体験プログラムを小学生に提供した。

○産業振興に関する目標を達成するための措置

- ・他大学、関係団体と連携して産学マッチングイベント Matching HUB nagaoka を初めて開催し、産学マッチングを促進した。能動的な企業への働きかけの結果、共同開発に関する相談が4件あるなど、今後につながる成果をあげている。
また、長岡市をはじめ、企業や一般の方へのデザイン思考講座を積極的に実施し、地域の人材育成に寄与している。

○若者の長岡への定着に関する目標を達成するための措置

- ・長岡地域定住自立圏内高校を対象とした大学見学会を独自に企画し、対象高校を訪問し参加を呼び掛けた。7校から生徒68人、引率教員7人の参加があり、施設見学に加えて学生及び教員との懇談の機会を設けた結果、20人の優先枠定員に対して75人の志願者確保につながった。

○地域貢献の成果に関する指標

- ・地域貢献に関する研究・プロジェクト数については、目標値（25件）を大幅に上回る43件であった。大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等による能動的な企業への働きかけにより、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめたことの成果。
- ・小中高生を対象とする大学主催の講座受講者数については、目標値（延べ150人）を上回る延べ171人であった。
- ・マスメディアによるパブリシティ回数については、目標値（200件）を大幅に上回る396件であった。大学の魅力的な取組を積極的に発信したことの成果。

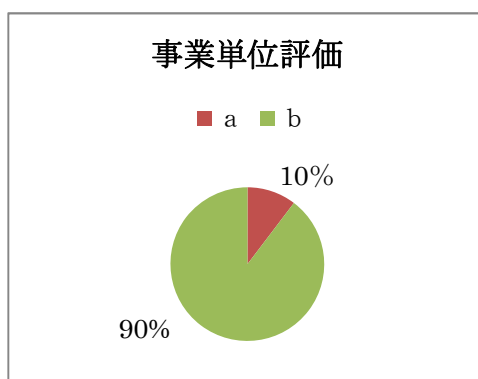
第4 業務運営等に関する目標

B	中期計画の進捗は概ね順調
---	--------------

(1) 評価理由

29項目のうち、26項目でb評価（年度計画を概ね実施）であったのに加え、3項目がa評価（年度計画を上回る）であった。

当年度の実績を総合的に勘案すると、B評価（中期計画の進捗は概ね順調）が相当である。



事業単位 評価結果	評定	s	a	b	c	d
	評価の目安	特に優れる 若しくは顕 著な成果	上回る	年度計画を 実施	下回る若し くは実施が 不十分	特に劣る若 しくは実施 せず
	項目数 29		3 (10%)	26 (90%)		

(2) 概況

○業務運営の改善に関する目標を達成するための措置

- ・新たな課題への対応やワークライフバランスの確保に向けて、教員役職者を再編し、事務局編成においては課系の統廃合によるスリム化を行い、業務の効率化を図った。
- ・日時に捉われず、随時受講が可能な大学職員の育成に特化したWEB研修講座を導入するとともに、対面の研修会等への参加の機会を増やし、状況に応じた効果的なスキルアップを図った。

○財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

- ・中長期修繕計画に基づき本部棟外壁ほか改修工事（2か年計画のうち1年目）を行い、施設設備の長寿命化を図った。
- また、施設設備の劣化状況を確認し、その結果を踏まえて令和5年度の工事内容を最終決定するとともに、令和6年度以降の計画の見直しと更新を行った。

○自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標を達成するための措置

- ・広報プロジェクトチームにて検討した広報計画に従い、ホームページや各種SNSを積極的に活用し、大学に関する情報を幅広く発信している。「NIDFocus」では教員、学生や卒業生の活躍の様子、学生

の作品、大学施設などの大学の魅力1つ1つに焦点をあて、写真やインタビューなども交えた伝わりやすく効果的な発信をしている。

結果として、ホームページアクセス数、ユーザー数ともに増加するという成果をあげている。

○その他業務運営に関する目標を達成するための措置

- ・令和5年度の学科再編や新たなカリキュラムを踏まえ、学生が能動的に学修する演習にフレキシブルに対応できるよう教室や什器等の環境を整備している。機能性と意匠性を考慮し開発された多様な什器の設置は、学生が日常的に使用感を試すことや新たな使い方を模索することなど、教材としても活用され、「キャンパスまるごとデザインの教材」というコンセプトを体現している。

- ・アドビクリエイティブクラウド等を継続して無料提供し、遠隔での授業の受講や場所を問わない制作活動で最大限活用できるよう支援している。

プロトタイピングルームでは3Dスキャナの導入により立体造形物のデータ化が容易となり、出力表現する工程まで一貫してできるようになったことで学生の制作の幅が広がった。また、学生スタッフが職員と協働で管理・運営をしており、学科や学年を超えて互いに高め合える場として定着し、利用率が昨年度の約2倍に拡大している。

- ・学生相談では、対面とオンラインを併用したカウンセリングを実施し、コロナ禍において柔軟な対応を行った。また、コロナ禍におけるインフルエンザの同時流行に備え、予防接種の費用支援及び学内での接種の機会を設けた。

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果						
					R4	計画の実施状況等	評価区分					
1	第1 教育に関する目標を達成するための措置 1 教育の成果、内容に関する目標を達成するための措置 (1) 学士課程における教育 建学の理念に基づき、「造形・表現」としてのデザインと「問題発見・解決プロセス」としてのデザインを探究し、社会が抱える問題の本質をとらえ、新たな価値を創り出すことのできる創造的人材を養成するための教育を行う。	1	第1 教育に関する目標を達成するための措置 1 教育の成果、内容に関する目標を達成するための措置 (1) 学士課程における教育 平成30年度以降入学者カリキュラムを着実に運営する。 また、教育研究組織の見直しに関する基本方針に基づき策定した、造形学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を踏まえ、令和5年度以降入学者カリキュラムを整備する。	平成30年度以降入学者カリキュラムに基づき授業科目を開講した。前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）の感染対策を実施しながら、対面と遠隔による授業形態を併用し、円滑かつ効果的な授業を実施した。 また、教育研究組織の見直しに関する基本方針に基づき策定した、造形学部のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）、アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）を踏まえ、令和5年度以降入学者カリキュラムを検討・整備した。	b	学修者本位の教育への転換を図ること、これまでの教育内容を土台とし、学びの意思のもと興味や意欲をもって学修できること及びこれからの流動的な社会状況に柔軟に対応できる力を身に付けることを主なコンセプトとして、これからの時代の流れを的確に捉え、創造力を備えた人材を輩出するために重要となる3つのポリシー（卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針）を踏まえ、令和5年度以降入学者カリキュラムを検討・整備した。	a					
								2	2	平成30年度以降入学者カリキュラムに基づき、理論と実用・実践の両面から深く探求し、新たな価値を創造するために必要な高度な専門性や深い洞察力、企画・調整力を養うための教育を行う。	b	b
4	4	イ 大学院説明会を2回開催し、学外からはオンラインで参加できるようにした。 修士課程で26人、博士（後期）課程で4人の志願者があり、入学者は修士課程で定員を上回る16人、博士（後期）課程で2人を確保した。 また、市内高等教育機関教職員に対し、大学院造形研究科イノベーションデザイン領域の周知を行った。	b	b								

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
4	イ 高大接続改革の趣旨にのっとり、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の3要素を評価する入学試験を行う。また、新学習指導要領に対応した入試制度を整備する。	5	ウ すべての入学試験において「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の学力の3要素を評価する試験を実施するとともに、令和7年度以降の新学習指導要領に対応した入試制度を策定し、公表する。	ウ 各入学試験の求める人物像に沿った形で「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性を持って多様な人々と共同して学ぶ態度」の学力の3要素を評価する試験を実施した。 また、令和7年度以降の新学習指導要領に対応した入試制度について、一般選抜における共通テスト利用科目を定め、公表した。	b		b
5	ウ 本学の教育内容への深い理解を得るとともに、特色のある教育環境を周知するため、受験生の立場に立った積極的かつ多様な広報活動を展開する。	6	エ 高校生が参加しやすい高校内や予備校内において本学独自の大学説明会、進学相談会を開催する。遠隔地はオンラインで、近隣については新型コロナウイルス感染症の流行状況を注視しながら対面で行う。 広報プロジェクトチームと連携し、総合パンフレットを造形学部学科再編に対応したものに全面改訂し、英語版とともに発行する。	エ 高校及び予備校内での対面型進学相談会等に積極的に参加した。 ・本学独自の説明会：オンライン3回、対面で11回開催し、合計250人超の参加 ・他大学と合同の高校内進学説明会：オンライン及び対面合計61回参加し、合計479人が参加 ・会場型進学相談会（対面）：25回で531人が参加 一般選抜では前年を上回る志願者を確保し、全入試の合計志願者は1,129人（志願倍率4.9倍）となった。 また、広報プロジェクトチームと入試委員会が連携して総合パンフレットを造形学部学科再編に対応したものに全面改訂し、英語版とともに発行した。	b	対面及びオンライン両形態で高校及び予備校内での対面型進学相談会等に積極的に参加し、一般選抜では前年を上回る志願者を確保し、高い志願倍率を維持している。 また、広報プロジェクトチームと入試委員会が連携して総合パンフレットを造形学部学科再編に対応したものに全面改訂し、英語版とともに発行した。	a
		7	オ 新型コロナウイルス感染症の流行状況に応じてWEB又は対面でのオープンキャンパスを開催する。 高校生が必要とする情報を提供するため、オンライン大学説明会を随時開催する。	オ 対面でのオープンキャンパスを7月30日、31日の2日間開催した。新型コロナ感染予防のため定員制とし、定員を満了す1,600人の参加があった。 くわえて、対面型オープンキャンパスに参加できなかった高校生に配慮し、8月28日にオンラインオープンキャンパスを実施し、約230人が参加した。両形態のオープンキャンパスを実施することのメリットが確認でき、次年度以降の実施手法と効果の検討につながった。 また、受験生対象のオンライン説明会を6回開催し、692人が参加した。	a	対面及びオンライン両形態でのオープンキャンパスの実施や受験生を対象とするオンライン説明会を実施するなど、コロナ禍であっても実施手法を工夫することで、より多くの学生に大学を知る機会を提供し、積極的な広報活動を行っている。 その結果、5.38倍という高い志願倍率を維持している。	a
		8	カ 本学に対する理解を深めてもらうため、高校教員等を対象とする大学説明会を開催する。	カ 全国の高校、予備校教員を対象とした大学説明会をオンラインで6回開催し、205人の参加があった。 あわせて、県内外の高校94校に115回、予備校26校に30回の訪問を実施し、高校教員等の本学に対する理解を深めた。	b		b
	(4) 教育課程 ア 学士課程		(4) 教育課程 ア 学士課程				
6	(ア) 現行のカリキュラムポリシー及びカリキュラムを検証し、科学技術の進歩や社会のニーズの変化への対応と学生の自主的、自律的な学修、研究、創作活動の活性化を目指した見直し・改編を行う。	9	(ア) 令和5年度より造形学部を4学科から「デザイン学科」「美術・工芸学科」「建築・環境デザイン学科」で構成する3学科に再編するにあたり、令和5年度以降入学者カリキュラムを整備する。	(ア) 令和5年度からの造形学部の3学科再編、新たに策定したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー、それに基づく新たなカリキュラムについて、4月からの稼働に向けて授業計画、担当教員及び運営方法などを検討し、整備した。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
7	(イ)「造形・表現」としてのデザインと「問題発見・解決プロセス」としてのデザインを体系的に学修するため、学部共通の基礎教育と各学科の専門教育のそれぞれにおいて適切な科目構成と授業計画を整備する。	10	(イ)「造形・表現」としてのデザインと「問題発見・解決プロセス」としてのデザインの学修に向けて、導入教育の両輪として「基礎造形実習」、「基礎ゼミ」を開講する。	(イ)「造形・表現」としてのデザインと「問題発見・解決プロセス」としてのデザインの学修における初年次基礎学修として「基礎造形実習」及び「基礎ゼミ」を実施した。 また、令和5年度以降入学者カリキュラムでは、新たに開講する「基礎造形演習」、「発想・着想概論」、「発想・着想演習」及び各学科の基礎演習について検討し、実施準備を行った。	b		b
		11	(ウ)対面、遠隔又はその併用の授業形態を活用し、地域社会、地域の企業と連携した「地域協創演習」、「インターンシップ」及び「ボランティア実習」を選択必修科目として開講する。	(ウ)新型コロナウイルス感染防止対策を図りながら対面と遠隔を併用し、地域の企業等との連携授業を実施し、全体で380人を超える多くの学生が取り組んだ。 「地域協創演習」では14プロジェクト延べ169人が受講した。 「ボランティア実習」では、大学を通して実施する公募型の2プロジェクト延べ54人が受講し、学生が直接ボランティアに参加する自主活動型では95人が参加した。 「インターンシップ」では、公募型で10企業延べ25人、自主活動型では40人が単位を修得した。 実施プロジェクト等は以下のとおり。 【地域協創演習】 ①日常用品のデザイン提案（家庭内での情報可視化の試み） ②カカシプロジェクト ③コスモスのラビリンス ④ニョロニョロの知らない世界（長岡高専とのコラボ企画） ⑤地域おこし協力隊の準隊員になろう！ ⑥文具館長岡店NID売場構築 ⑦FM NAGAOKA メディアプロジェクト ⑧Upcycle project 「The ニュー」 ⑨ヨイタタンサケイカクnext ⑩WE LOVE 錦鯉プロジェクト ⑪越後みしま竹あかり街道2022 ⑫いいことをデザインする「かいしや」プロジェクト（4大学1高専コラボ企画） ⑬地域の「宝」や歴史・文化等の地域資源活用 ⑭SFプロトタイピングの実践～20XX年の映像作家のとある一日～ 【ボランティア実習（公募型）】 ①Make A Wish 30周年記念事業プロジェクト ②フェニックス花火ボランティア 【インターンシップ（公募型）】 青芳、アドブレーション、IKASAS DESIGN、新潟日報社、デジタル・アド・サービステレビ朝日クリエイティブ、福田組、富士印刷、フラー、本間組 【インターンシップ（自主活動型）】 遠藤建築アトリエ、カリモク家具、小林設計、サイゾー、サイバーエージェント、ゼビオホールディングス、つばさレコーズ、新潟県土木部、新潟地域振興局 ほか	b	「地域協創演習」では地域課題等の解決に取り組む14のプロジェクトを実施し、感染防止対策を徹底したうえで、対面とオンラインを併用して昨年度より多くの学生が参加することができた。 また、チームで考案した起業プランを産学マッチングイベントMatching HUB nagaokaのビジネスプランコンテストで発表した。	a

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
8	イ 大学院課程 (ア) 現行カリキュラムを検証し、科学技術の進歩や社会のニーズの変化を踏まえた必要なカリキュラムの見直しを行う。	12	イ 大学院課程 (ア) 平成30年度以降入学者カリキュラムを着実に運用するとともに、令和3年度の検証結果を踏まえ、学部との接続を考慮したカリキュラムの改編に向け引き続き検討を行う。	(ア) 平成30年度以降入学者を対象とする領域編成及び大学院カリキュラムに基づき授業科目を開講した。 また、大学院・学部の専任教員が両課程を兼任することにより教育研究のスムーズな接続を図るとともに、令和5年度の学部カリキュラム完成年度である令和9年度の改編を視野に現行大学院カリキュラムの見直しを継続実施した。	b		b
9	(イ) 高度な専門性の追求や、「造形・表現」としてのデザインと「問題発見・解決プロセス」としてのデザインの統合深化に向けた適切な科目構成と授業計画を整備する。	13	(イ) 創造力・統合力・問題解決力を身に付け、高い専門性と新たな価値を創造する能力を備えた人材を育成するため、修士課程で基礎理論及び専門基礎能力を学修する「基礎科目群」、「専門科目群」の各科目を開講するとともに、各領域の特性に応じて専門性を深める「領域科目群」の研究科目を開講する。 また、地域課題等実践的・応用的に取り組む修士課程「地域特別プロジェクト演習」、博士（後期）課程「特別プロジェクト研究演習」を開講する。	(イ) 修士課程科目として、「基礎科目群」、「専門科目群」、「領域科目群」を開講した。 また、地域課題等実践的・応用的に取り組む修士課程「地域特別プロジェクト演習」、博士（後期）課程「特別プロジェクト研究演習」を開講した。 くわえて、効果的にオンラインを活用し、対面と組み合わせ授業実施や研究発表を行った。	b		b
10	(5) 教育方法 ア 学生の個性と創造性を尊重し、自主的、自律的な自己学修力を高めることを目指して、教員と学生の豊かなコミュニケーションを図りながら、少人数教育を行う。	14	(5) 教育方法 ア 教員と学生とのコミュニケーションを重視する少人数教育として実習、演習、ゼミを実施する。	ア 学年進行による専門性の深化と連動し、教員と学生の効果的なコミュニケーションを重視する少人数教育として、実習、演習及びゼミを開講した。 特に、学生をグループ分けし、複数の課題を交互に取組むことにより、教員とコミュニケーションを取りながら学生の個性と創造性を引き出す少人数教育の効果的な授業運営ができた。	b		b
11	イ 学生の広い視野を育み、教育効果を高めるため、関連する授業科目間の連携を強化した複合的な教育を行う。	15	イ 関連する授業間の連携強化によって、効果的かつ複合的な授業を実施する。 また、対面、遠隔又はその併用の授業形態を有効的に活用する。	イ 複数領域を学修する各学科「コース別演習」、学修と研究の接続を図る「ゼミⅠ・Ⅱ」、広い視野と自主性に基づき研究に取り組む「卒業研究」を開講し、それぞれの体系的な連携を図った。 また、対面を主体としながら録画や画面共有など授業内でオンラインを活用し、効果的な授業運営を行なった。 くわえて、雪害等の対応としてオンラインによる授業を実施することで、学生への教育を継続することができた。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
12	ウ 地域の企業、高等教育機関、自治体、コミュニティ等と連携し、地域の様々な課題に取り組む実践的な教育を行う。	16	ウ 地域社会、地域の企業、高等教育機関、自治体等と連携する「地域協創演習」をはじめとした演習、実習を開講する。	<p>ウ 「地域協創演習」では地域課題等について14のプロジェクトを組み立て、全体で380人を超える多くの学生が取り組んだ。</p> <p>また、地域協創演習以外の演習科目においても、企業や高等教育機関との連携により課題設定のもと授業を実施した。実施プロジェクト等は以下のとおり。</p> <p>【地域協創演習】</p> <p>①日用品のデザイン提案（家庭内での情報可視化の試み） ②カカシプロジェクト ③コスモスのラビリンス ④ニョロニョロの知らない世界（長岡高専とのコラボ企画） ⑤地域おこし協力隊の準隊員になろう！ ⑥文具館長岡店NID売場構築 ⑦FM NAGAOKA メディアプロジェクト ⑧Upcycle project 「The ニュー」 ⑨ヨイタタンサケイカクnext ⑩WE LOVE 錦鯉プロジェクト ⑪越後みしま竹あかり街道2022 ⑫いいことをデザインする「かいしや」プロジェクト（4大学1高専コラボ企画） ⑬地域の「宝」や歴史・文化等の地域資源活用 ⑭SFプロトタイピングの実践～20XX年の映像作家のとある一日～</p> <p>【その他の演習科目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部 視覚デザイン学科「ゼミⅠ」にて、お酒のラベル等のデザインを市内酒造会社と連携 ・学部 視覚デザイン学科「ゼミⅡ」にて、日用品パッケージのリデザインを市内小売店と連携 ・学部 プロダクトデザイン学科「プロダクトデザイン演習Ⅰ」にて、子どもの生活を豊かにするプロダクトをテーマに市内小学校と連携 ・学部 プロダクトデザイン学科、美術・工芸学科「生産技術論」にて、市内企業への学外見学を実施 ・学部 建築・環境デザイン学科「建築・環境デザイン演習Ⅱ」にて、NaDeCBASEを拠点に市内中心市街地にてフィールド活動を実施 ・大学院「構想発想手法論」にて、長岡市職員を交えデザイン思考のワークショップを実施 	b		b
13	エ 社会の要請に対応して、起業家マインドや国際感覚を醸成する教育を行う。	17	エ 起業家マインドを醸成する教育として、起業の全体像の理解や実践的手法を学修する学部「社会起業」、大学院修士課程「起業演習」を開講する。	<p>エ 起業の概要と手続き等を学修する学部科目「社会起業」及び起業計画を立案する修士課程科目「起業演習」を開講した。</p> <p>また、「地域協創演習」のプロジェクトにおいてチームで考案した起業プランをMatching HUB Nagaokaのビジネスプランコンテストで発表した。</p>	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
14	オ NaDeC構想に基づき、市内高等教育機関の間でそれぞれの専門性を生かした授業連携を行う。	18	オ 国際感覚の醸成やデザインの最新の動向を学修するため、国内外において第一線で活躍する講師を招聘する「特別講義」を開講する。	オ 各学科とも、国内外において第一線で活躍している4人の外部講師を招き、前期8授業、後期8授業、計16授業の特別講義を開講した。 また、1年生の授業にて客員教授が講義を実施するとともに、一般市民に向けて公開した。	b		b
		19	カ NaDeC構想に基づき、市内高等教育機関の間の単位互換制度の有効活用に向けて、学生に当該制度の内容を適切に周知する。 また、「地域協創演習」の他大学等との共同実施を推進する。	カ NaDec授業連携ワーキンググループにおける各校との連携により、令和5年度から本学で開講し、4大学1高専の単位互換科目として位置付ける「長岡学」の授業計画、講師選定及び授業準備を行った。 また、長岡工業高等専門学校のアントレプレナーシップ(起業家)演習との合同授業を「地域協創演習」にて実施し、異なる分野の学生がデザイン思考をもとに混成チームでプロジェクトに取り組み、成果を発表した。	b		
15	(6) 成績評価 各授業科目について達成目標、授業計画、成績評価基準等をシラバスに明示の上、厳正な成績評価を行うとともに、学位授与基準に基づき厳格に学位授与を行う。	20	(6) 成績評価 各授業科目についてシラバスを作成し、授業計画、達成目標、成績評価基準等を学生に明示する。 また、厳正な成績評価に基づき学位授与を行う。	各科目にて担当教員がシラバスの見直しを行い、それを学生に明示した上で、厳正な成績評価を実施するとともに、学位を授与した。 さらに次年度に向けてディプロマ・ポリシーの達成を意識し、卒業研究、特別研究の成績評価基準の見直しを全学的に行った。	b		b
16	2 教育の実施体制に関する目標を達成するための措置 (1) 教員の適切な配置と教育力の向上	2	(1) 教員の適切な配置と教育力の向上	ア 令和5年度の学科再編に対応するため、令和5年4月1日付けで退職者補充を含む3人の専任教員の採用を決定した。 また、新たなカリキュラムの実施により、教年間に渡る退職者を見据えた採用計画を作成し、令和6年度採用で5人の募集を行うことを決定した。	b		b
	ア 教育研究体制の充実ときめ細やかな指導体制を実現し、教育研究力の向上を図るため、学部、大学院を通じた全学的な見地から、専門性を生かしつつ、均衡にも配慮し、適切な教員の配置を行う。						
17	イ 専任教員、非常勤講師の採用に当たり、各分野の最前線で活躍する人材の積極的な登用を図る。	22	イ 学部共通専門科目、各学科専門科目、大学院科目等において、各分野の最前線で活躍する人材を採用する。	イ 現役デザイナー・アートディレクター、作家、建築家等、多方面で活躍中の185人を非常勤講師として採用した。	b		b
18	ウ 優れた教育方法を共有化し、教育水準の向上を図るため、ファカルティ・ディベロップメント活動を推進する。	23	ウ 教育方法の共有や教育水準の向上を目的とし、ファカルティ・ディベロップメント研修会を実施する。	ウ 大学院のカリキュラムに関する教員研修を1回、障がい学生支援に関する研修を1回、教務事務基幹システムに関する研修を1回、就職進路に関する研修を2回、学生トレンドに関する研修を1回、学生支援に関する研修を1回、認証評価に関する研修を1回の計8回実施した。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
19	(2) 教育環境の整備 ア 「キャンパスまるごとデザインの教材」というコンセプトの下、費用対効果や既存の施設設備の有効活用に留意しつつ、時代の性能水準等に即し、教育効果の高い施設設備の整備を行う。	24	(2) 教育環境の整備 ア 令和5年度の学科再編を踏まえ、必要となる設備、機器について、時代の潮流及びデザインを考慮し整備する。	ア 令和5年度の学科再編やカリキュラム再編を踏まえ、カリキュラムとの連動を考慮し、機能性と意匠性を兼ね備えた教室・アトリエ空間を整備した。 また、フレキシブルに実施できるデザイン思考のワークショップに適した机・椅子の入替、多目的に使用できる中規模人数を収容する演習室への改修、操作卓の機能を兼ね備えた教卓の整備などを行い、学生が日常的に触れる什器においても優れたデザインのものを取り入れた。	a	令和5年度の学科再編や新たなカリキュラムを踏まえ、学生が能動的に学修する演習にフレキシブルに対応できるよう教室や什器等の環境を整備している。 機能性と意匠性を考慮し開発された多様な什器の設置は、学生が日常的に使用感を試すことや新たな使い方を模索することなど、教材としても活用され、「キャンパスまるごとデザインの教材」というコンセプトを体現している。	a
20	イ 工房、アトリエ、スタジオ、コンピュータ室、プロトタイプングルーム、教員・学生・卒業生作品の展示スペース等の施設設備、パソコンのソフトウェアなどの維持管理・更新・整備を適切に行う。	25	イ アドビクリエイティブクラウド等の教育、研究に必要なソフトウェアを学生に提供する。 また、工房、アトリエ、プロトタイプングルーム等の施設設備の適切な維持更新を行う。	イ 学生の大学内外での授業の受講や制作活動を支援するため、アドビクリエイティブクラウド、Zoom、3DCGソフトウェア等を継続して無料で提供した。 また、教室やアトリエ等で対面と遠隔を組み合わせた授業や発表に対応するため、主要教室への大型モニタの配置を進めた。 さらに、学生ポータルサイト「パレット」の機能性・利便性の向上を図るべく教務事務基幹システムを更新した。 くわえて、プロトタイプングルームではさらに多様な制作に対応すべくスキャン範囲の広い3Dスキャナを導入するとともに、多学年・学科で構成する学生スタッフを配置し、学生による自立的な機材や工房の管理・運営の実施及び他学生の制作サポート等を行った結果、利用が拡大した。	a	アドビクリエイティブクラウド等を継続して無料提供し、遠隔での授業の受講や場所を問わない制作活動で最大限活用できるよう支援している。 プロトタイプングルームでは3Dスキャナの導入により立体造形物のデータ化が容易となり、出力表現する工程まで一貫してできるようになったことで学生の制作の幅が広がった。また、学生スタッフが職員と協働で管理・運営をしており、学科や学年を超えて互いに高め合える場として定着し、利用率が昨年度の約2倍に拡大している。	a
21	(3) 教育活動の評価及び改善 教育活動に対する自己点検・評価、長岡市公立大学法人評価委員会及び認証評価機関の外部評価、学生による授業評価等を実施し、必要な教育活動の改善を行う。	26	(3) 教育活動の評価及び改善 より良い授業運営に向けて全学生を対象とした授業評価アンケートを実施するとともに、集計結果及び学生の声に対する担当教員のコメントを学生に公開する。 また、教育内容及び業務実績に関する自己点検・評価を行うとともに、長岡市公立大学法人評価委員会及び大学教育質保証センターによる評価を受け、必要な業務の改善を行う。	各学期末に全開講科目に対して全学生を対象に授業評価アンケートを行い、その結果を学生に公開するとともに、教職員による検討会を実施し、情報共有や課題の解決を図った。 また、卒業・修了者を対象としたアンケートにより在学期間中を通じた教育・研究に関する評価や意見を聴取し、結果を教職員間で共有した。なお、学生の学修成果や教育成果については外部の専門機関との協働によりデータの可視化・分析に向け手法を検討した。 あわせて、業務実績に関する自己評価を行うとともに、長岡市公立大学法人評価委員会による評価を受けた結果、教育研究組織の見直しに基づく令和5年度の学科再編に向けた根幹的な事項の決定、第4アトリエ棟（仮称）等整備基本計画の策定、また、学生の心身の健康サポートなど学びの支援が年度計画を上回ると評価され、総合的には「中期計画の進捗は順調」と認められた。 大学教育質保証・評価センターによる認証評価では、点検評価ポートフォリオの審査に加えて実地調査（オンライン）を受審し、国の大学評価基準を満たしていると認定された。一方で指摘を受けた事項については、改善に向けて継続的に検討・対応を行った。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
22	<p>(4) 教育研究組織の見直し</p> <p>デザインの創造性にテクノロジーの発展性を掛け合わせ、人々の暮らしをより楽しく豊かにすることを目指して、新しい学科を創設する等、時代の変化を見据えた教育研究組織の見直しを行う。</p> <p>3 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 修学・生活支援</p>	27	<p>(4) 教育研究組織の見直し</p> <p>令和5年度より造形学部を4学科から3学科に再編する。デザインの領域拡大や融合に柔軟に対応すべく「プロダクトデザイン」「テクノロジー×デザイン」「視覚デザイン」の領域で構成する「デザイン学科（入学定員150人）」を新設し、既存の「美術・工芸学科（入学定員30人）」、「建築・環境デザイン学科（入学定員50人）」と合わせ3学科体制とする。組織体制の変更に伴い、次の事項に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度入学者カリキュラムの運営準備 ・学生募集活動及び入学試験の実施 ・人員配置 ・新校舎建設を含む施設設備の再整備 <p>3 学生への支援に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 修学・生活支援</p>	<p>令和5年度からの学科再編、新たなカリキュラムの編成について文部科学省への届出を完了するとともに、以下の事項を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度入学者カリキュラムの運営に向けてカリキュラム表、シラバス、モデルカリキュラムの作成等を行った。 ・学生募集活動、入学試験を実施し、令和5年度の入学者を決定した。 ・3人の専任教員を採用し、うち2人は先進的に社会で活躍する者をテクノロジー×デザイン領域に配置した。 ・第4アトリエ棟（仮称）等整備基本計画に基づき、令和6年秋に供用開始する新校舎の基本設計及び実施設計を完了し、既存校舎については教室・備品を中心に段階的な整備を実施した。 	b		b
23	<p>ア 担任制度等を通じて、教員が学生の修学面での困難を把握し、きめ細やかな配慮、助言、指導を行う。</p>	28	<p>ア 担任制度を通じて、教員が学生の修学面での困難を把握し、きめ細やかな指導を行う。</p>	<p>ア 担任制度を通じて、教員が学生の修学面での困りごとに対し臨機応変に指導を行った。親睦会では少人数単位で実施するなど、新型コロナウイルス感染防止対策を講じつつ学生が同級生や上級生とつながりを持つ機会を作った。</p>	b		b
24	<p>イ 学生の心身の健康と生活上の様々な悩みに対して、職員、医務室職員、カウンセラーが連携し、きめ細やかな支援を行う。また、障がいへの配慮等、修学する上で支援を必要とする学生に対し、修学特別支援室などによる組織的な対応を行うとともに、その利用方法について広く学生に周知する。</p>	29	<p>イ 学生の心身の健康と生活上の悩みに対して、職員、医務室職員、カウンセラーが連携し、きめ細やかな支援を行う。また、LGBTQに対する学生・職員による全学的な対応を行うためのガイドラインを策定する。</p>	<p>イ カウンセラー（臨床心理士）、学生支援課及び修学特別支援室による三者合同等の情報共有を前年度の3倍にあたる17回実施し、個々の学生に合ったかかわり方、今後のケアなどの意見交換を行った。結果、学生の心身の健康と生活上の悩みに対して、丁寧な支援ができた。</p> <p>また、性的指向・性自認に対する学生からの相談対応及び具体的支援策を今後より具体的に進めていくため、SOGIの多様性に係るガイドラインを策定した。</p>	a	<p>コロナ禍でより複雑化した個々の悩みに寄り添うため、カウンセラー、学生支援課及び修学特別支援室による情報共有の回数を前年度の約3倍に増やした。その結果、相談者個々の状況や特性、緊急性や対応時の注意点などをタイムリーに共有し、学生に最適と思われる支援を遅滞なく提供できる体制が整備された。また、SOGI（性的指向・性自認）の多様性に係るガイドラインを策定し、一人ひとりが多様性を尊重され、自分らしく安心して修学できる環境づくりに努めている。</p>	a
25	<p>ウ 女子学生が多く在籍する状況を踏まえて、学内生活環境の整備、心身の健康保持、防犯等に留意した支援を行う。</p>	30	<p>ウ 女子学生が多く在籍する状況を踏まえて、学内生活環境の整備及びサービス向上のため、ヒアリングを行い、有益なアイデアについて検討・実施する。また、学生が体験した不審者情報を共有するためのシステムにより、学生の防犯意識を高める。</p>	<p>ウ 年間を通じて学内女子トイレに無料の生理用品を設置するとともに、学生と協働し、当該事業の認知・利用拡大のための広報物及びサインを制作した。</p> <p>また、学内ポータルサイトで不審者情報を投稿し共有できるシステムを学生に周知した。くわえて、新潟県警察と連携した講習会実施し、学生の防犯意識・対応力を高めた。</p>	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
26	エ 学内生活環境、課外活動等に対する要望などを学生アンケートを通じて把握し、明らかになった課題について対応を図る。	31	エ 一昨年度実施した学生生活等実態調査の結果をもとにした改善を検証するとともに、学生生活実態調査を実施し、新たな要望等を把握する。	エ 隔年で実施している学生生活等実態調査の結果をもとに、改善の必要事項を確認し、駐輪場の増設や、感染対策に留意した課外活動制限の緩和を行った。 令和4年度は学生生活等実態調査の実施年であり、新たな要望等を把握し、学生に対して調査結果の開示を行った。	b		b
27	オ 学生に対し、日本学生支援機構奨学金ほか各種奨学金制度について、適切に情報提供を行う。また、保護者会・校友会と連携し、作品展示やコンペへの出品等、学生の自主的な活動の奨励・支援を行うとともに、優秀な学生に対して奨励金を伴う表彰を実施する。	32	オ 成績優秀な学生に対して奨励金を伴う表彰を実施するとともに、学外から寄せられる各種奨学金の情報をタイムリーに学生に提供する。 また、校友会助成金事業を学生に周知し、制作活動、コンペ等への出展を支援する。 さらに、キャンパスライフを活性化させていくための学生の主体的な取組に対し、継続的な支援を実施する。	オ 長岡造形大学優秀学生賞規程に基づき、造形学部12人の学生を表彰し、副賞として報奨金を贈呈した。 日本学生支援機構をはじめとした学外の奨学金情報を学内ポータルサイトを通じて随時周知し、諸手続きを適切に行った。高等教育の修学支援新制度に基づく授業料等減免及び給付奨学金を年間で延べ252人の学生が受給した。 校友会助成事業を学生に周知し、活動助成件、授賞式交通費助成5件が採用され助成を受けた。 キャンパスライフをより活性化させるための「ハビキャンコンペ」を実施し、受賞アイデア2件（いにどかさ、Error Database）の実現を支援した。また、学生自身の不要画材を他学生に無料譲渡する昨年度のアイデア（おさがりラック）を年間を通じて実施した。	a	高等教育の修学支援新制度に基づく授業料等減免等、各種制度の情報発信を積極的に行い、適切に制度を活用することで、学生が安心して修学できる環境づくりに寄与した。 また、オープンキャンパスの補助や図書館事務など学内で学生が働く場を生み出し、学生の経済的な支援をしながら学生が自ら大学の魅力づくりに携わることのできる仕組みづくりをしている。 学生アイデアコンペでの受賞アイデアの実現支援は、学生の自主的な活動を促し、モチベーションアップにつながっている。 受賞アイデア2件を実現したほか、昨年度受賞アイデア「おさがりラック」は単発で終わらず2年目も継続して実施し、学内で定着した取り組みになっている。	a
28	(2) 就職・進学等支援 ア 学生が早期からキャリア形成への理解を深めることができるよう、低学年からキャリア教育や説明会を実施する。	(2) 就職・進学等支援 33 ア 1年次から4年次まで、学年に応じたガイダンス、キャリア教育科目、講座や説明会等のキャリア教育を実施する。 また、企業で実践されているデザインを体験する講座を実施する。講座や説明会には低学年の参加も推奨する。	ア 1年次から4年次まで、学年に応じたガイダンスを実施した。2年後期、3年前期にはキャリア教育科目を開講した。そのほか、業界研究講座、就職対策講座、ポートフォリオ（作品集）個別講評会を実施し、当該学年だけでなく低学年の学生の参加も推奨した。2月に64社の協力を得て実施した「キャリア研究フェス」には2年生、3年生の学生を中心に約270人の学生が参加した。	b		b	
29	イ 学生のキャリア形成を支援するため、インターンシップ、進路選択に関する講座・説明会の実施等の取り組みを強化する。また、教員のキャリア形成支援力向上のためのセミナー等を実施する。	34 イ 流動的かつ多様化する企業の採用活動の状況に学生が的確に対応できるよう、個別予約システムを活用して随時相談を受け付ける。 また、対面に加えオンラインでの個別相談を活用する。	イ 面談予約システム、オンラインミーティングツールを活用し、2人のキャリアアドバイザーを中心に個別相談、面接練習、履歴書やエントリーシートの添削など、学生個々の進捗状況や要望に応じた支援を実施した。	b		b	
		35 ウ 求人検索システムを活用し、求人情報やインターンシップ情報を学生に提供する。	ウ 求人検索NAVI、学内ポータルサイトを活用し、1万件超の求人情報、インターンシップ情報、会社説明会、就活イベント情報を学生に提供した。	b		b	
		36 エ インターンシッププログラムを企業とともに企画し、学生の参加促進を図る。インターンシップの効果を高めるために、キャリア教育と連携し、事前事後指導を充実する。	エ 長岡市周辺を中心に県内の企業10社とともに公募型インターンシップのプログラムを企画し、延べ25人の学生が参加したほか、自主活動型インターンシップに延べ95人が参加した。「キャリア計画実習Ⅱ」での履歴書作成指導、インターンシップマナー講座、面談でのインターンシップの振り返りを実施した。	b		b	

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
30	ウ 教員が、研究室に所属する学生をはじめとして、学生の状況を的確に把握し、就職・進学に関する適切な情報提供や助言を行う。 4 国際化に関する目標を達成するための措置	37	オ 学生が大学で得た造形表現力や課題解決プロセスなど、学びや気付きを就職活動でアピールできるポートフォリオの制作支援講座を実施する。 また、志望する業界にあった制作ができるよう、学生によるポートフォリオ説明会及びアドバイスを実施する。	オ ポートフォリオ作成講座及び個別講習会をそれぞれ2回ずつ増やし、作成講座は5回、講習会は4回開催した。前年度の倍の延べ600人の学生が受講した。 また、新規で就職内定者によるポートフォリオプレゼン会を2回実施し、下級生の制作活動を支援する取組を強化したほか、卒業生からポートフォリオの提供を受け、学生が最新のものを閲覧できるよう随時入替を行った。 このほか、学内での対面企業説明会実施に併せ企業デザイナーによるポートフォリオ指導を実施した。	a	ポートフォリオプレゼン作成講座等の回数を前年度より増やし、就職活動支援の拡充を図っている。 ポートフォリオプレゼン会では就職内定者のプレゼンを聴くだけでなく、3年生が作成したポートフォリオをプレゼンし、内定者から直接指導を受ける時間を設けた。内定者から作成ポイントやプレゼン方法を直接指導してもらうことで就職活動につながる、より実践的な学びとなるよう工夫している。 また、企業デザイナーによるポートフォリオ指導では、企業の第一線で働く卒業生から直接指導を受けることで志望する業界や企業のニーズを知ることができ、学生の就職活動、キャリアデザインの支援となっている。	a
		38	カ キャリア形成支援力向上のため、教員向けのセミナーを実施する。	カ キャリア形成支援力向上のため、教員対象の研修会を2回開催した。	b		b
		39	キ 企業と学生のマッチング力を高めるため、企業の採用担当者、大学の教員及び就職支援担当者を対象とする情報交換会等に参加し、就職情報に関して相互理解を深める。なお、令和5年度からの新学科体制を求人企業等にアピールする。	キ 企業との情報交換会に4回参加したほか、キャリア研究フェス開催時に参加企業と情報交換を行った。 ・参加実績 新潟県、長岡市、富山県	b		b
		40	ク 学生の新潟県内及び長岡市内での就職促進に向け、地元企業との連携を深めるとともに、長岡市が推進するNAGAOKA WORKER 事業と連携する。	ク NAGAOKA WORKER と連携し、長岡に進出した企業に学生2人が就職したほか、長岡市と協力し、市内に進出を検討している企業と情報交換会を3回行った。 また、キャリア研究フェスには県内企業28社が参加し、多くの学生が会社説明を受けた。	b		b
31	(1) 国際交流協定締結校との交換留学、連携事業、単位互換等を推進する。	41	ケ 卒業研究指導教員をはじめとする教員とキャリアデザインセンターが連携し、学生の就職活動・起業の状況把握、適切な情報提供、助言を行う。 4 国際化に関する目標を達成するための措置	ケ キャリアデザインセンター会議で学生の進路決定状況及び就活支援状況を共有するとともに、卒業研究指導教員とキャリアデザインセンターが連携し、学生の就職活動の状況把握、適切な情報提供、助言を行った。	b		b
32	(2) 学生の国際的視野の拡大を図るため、国際交流事業支援奨学金制度の活用等により、海外留学・研修、国際的なコンペや発表の場などへの参加を促進する。	42	(1) 米国ハワイ大学とのワークショップの実施など、国際交流協定締結校との共同事業を実施する。	学生の海外での活動制限を緩和し、国際交流協定締結校との事業を再開し、以下の取り組みを実施した。 ・ハワイ大学建築学部とのピースメモリアルワークショップ(本学5人・ハワイ大学12人の参加) ・トリアー応用科学大学への派遣(2人)	b		b
		43	(2) 学生の国際的視野の涵養及び自主的な海外活動の思索につなげるために、各地の最新情報や留学情報等を適切に学生へ提供するとともに、専門機関が提供する危機管理システムを導入し、留学生の派遣における緊急時対応・支援体制を整備する。	3事業7人に対し国際交流事業支援奨学金を給付した。 また、今後の学生の自主的な海外活動の推進に向けて、学生に対して学内での留学生による母国紹介等のイベント実施や情報提供を行った。 くわえて、海外への派遣学生に係る危機管理システムを導入し、海外活動をより安全に実施できるよう体制を整備した。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
33	(3) 留学生の受入れを推進するため、学修面や生活面において、留学生に配慮した環境・制度を整備する。 【教育の成果に関する指標の目標値】 ① ・志願倍率 3倍 <志願者/募集定員(一般)>: 毎年度 ② ・学生の授業内容満足度 4.0以上 <5段階評価>: 毎年度 ③ ・大学院の入学者数 修士15人、博士3人: 毎年度	44	(3) 留学生が安全かつ有意義な大学生活を送るため、学生チューターによるサポートを実施する。 【教育の成果に関する指標の目標値】 ① ・志願倍率 3倍 <志願者/募集定員(一般)> ② ・学生の授業内容満足度 4.0以上 <5段階評価> ③ ・大学院の入学者数 修士15人、博士3人	ブラジルからの県費留学生である学部研究生1人を受け入れ、生活面等の支援を行う学生チューターとして大学院生1人を配置した。 また、令和5年度の交換留学生の受入れに向けてもチューターを募集・選定した。 ・志願倍率 5.38倍 <志願者700人/募集定員130人(一般)> ・学生の授業内容満足度 前期: 4.53 後期: 4.54 年間平均 4.54 <5段階評価> 毎年全科目において実施する授業評価アンケート(5段階評価)での設問「授業指導内容に満足できましたか」に対する回答 ・大学院の入学者数 修士16人、博士2人	b		b
					100%超	目標値を上回っている。	年度計画を上回る
					100%超	目標値を上回っている。	年度計画を上回る
					80%以上 100%以下		年度計画を概ね実施

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
	第2 研究に関する目標を達成するための措置		第2 研究に関する目標を達成するための措置				
	1 研究の内容及び水準に関する目標を達成するための措置		1 研究の内容及び水準に関する目標を達成するための措置				
34	(1) デザインの役割や対象領域の拡大を探索する研究、実用性・実践性の高い研究、複数専門領域の教員等が共同で実施する学際的な研究など、先進的で質の高い研究に対し、特別研究費等を通じて重点的に支援する。	45	(1) 特別研究費においては、デザインの役割や対象領域の拡大を探索する研究、実用性・実践性の高い研究、複数専門領域の教員等が共同で実施する学際的な研究など、先進的で質の高い研究を優先的に採択することとし、重点的に支援する。 特別研究費の申請は、外部競争的資金応募を前提とした計画とすることで、研究の質の確保及び外部資金の獲得を推進する。	研究の質の向上や外部研究資金の獲得を促進するため、特別研究費の申請時に外部研究資金獲得の計画を含めることを条件として募集を行った。申請内容を精査した上で、特別研究から外部研究資金の獲得につながり、さらに質の高い研究に発展する可能性のあるものを4件採択した。	b		b
35	(2) 教員の研究意欲を向上し、研究の活性化を図るため、教員顕彰制度を実施する。	46	(2) 優れた成果を挙げた教員に対し、教員顕彰制度により表彰を行う。なお、申請条件は外部競争的資金への応募実績がありかつ各種の受賞、学会等での実績、制作活動における実績等で優れた評価を受けた者とする。	教員から提出された教員顕彰制度の申請内容を精査し、外部競争的資金への応募実績がありかつ評価を受けた者（受賞、学会等での実績、制作活動における実績等）で優れた成果を挙げた教員13人を表彰した。学内外へ発信することで、今後の研究意欲向上及び研究の活性化を図った。	b		b
36	(3) 職員・学生の研究意欲を高めるための環境・制度の整備を図りつつ、地域課題解決に向けた研究や企業等と連携した研究を推進する。	47	(3) 地域協創センターを窓口とし、地域課題解決に向けた研究や企業等と連携した研究を推進する。	地域協創センターを窓口企業等と連携を進め、受託研究8件、共同研究6件の契約を締結した。地域課題解決に向けた研究や事業化を支援する大学のシーズ（独自のノウハウや技術力、素材、企画力、アイデアなど）を教員や学生とともに積極的に情報発信したことにより、今後の研究等につなげることができた。 また、燕三条ものづくりメッセ、Matching HUB nagaoka、Matching HUB北陸に出展し大学のシーズを地域・企業に知ってもらったことで、今後の研究等につなげることができた。	a	大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等により、能動的な企業への働きかけを行っている。その結果、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめ、今後の研究等につなげている。	a
	2 研究の成果に関する目標を達成するための措置		2 研究の成果に関する目標を達成するための措置				
37	(1) 卒業・修了研究展をはじめとする公開の展示会や事業等を通じて、教員や学生の研究成果の発表を積極的に行う。	48	(1) 学生の研究成果の発表の場として卒業・修了研究展を実施する。 また、造形学部のうち、美術・工芸学科及び建築・環境デザイン学科の教育研究成果を発表する教員作品展を展示館で実施する。	卒業・修了研究展は、3年ぶりに一般来場者の入場を受け入れ、過去10年では最多の約4,400人が来場した。 また、オンラインを活用したヴァーチャル展の実施と、博士（後期）課程学生や有志学生の学外会場での展示等を実施し、大学広報につながる成果発表の機会となった。 くわえて、美術・工芸学科及び建築・環境デザイン学科の教育研究成果を発表する教員作品展を展示館で実施した。	a	一般来場者の入場も可能となった3年ぶりの開催に向け、在学生が卒業生から展示ノウハウを学ぶ機会を設けた。その結果、展示の質の向上や円滑な展示作業につながり、過去10年で最多の来場者数となった。 また、ヴァーチャル展の実施や初めて博士（後期）課程の学外展示に取り組むなど、複数の手段により作品、研究成果を積極的に発信している。	a
38	(2) 教員・学生の作品を体系的に蓄積するとともに、学術機関が提供するウェブシステムを活用し、学術情報や研究成果の公開を行う。	49	(2) 学部の「卒業研究」および大学院の「特別研究」の成果をウェブシステムで蓄積・公開する。	卒業・修了研究展の特設Webサイトにて、学生の研究成果を蓄積・公開した。 令和5年2月から3月末までの閲覧者数：約1.7万人	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
		50	(3) 学術情報や教員の研究成果をウェブシステム（長岡造形大学リポジトリ）で蓄積・公開する。	令和3年度末に完成した研究紀要第19号の掲載論文のうち23本を、令和4年4月にリポジトリへ登録し公開した。	b		b
39	3 研究の実施体制に関する目標を達成するための措置 (1) 地域の企業、高等教育機関、自治体、コミュニティ等と連携した実用的かつ実践的な研究を実施する。	51	(1) 地域協創センターを窓口とし、地域社会や地域の企業等と連携した受託研究と共同研究を実施し、地域課題の解決等に取り組む。その際に、NaDeC構想による連携、企業等との包括連携協定も効果的に活用する。	地域協創センターを窓口企業等と連携を進め、受託研究8件、共同研究6件の契約を締結した。地域課題解決に向けた研究や事業化を支援する大学のシーズを教員や学生とともに積極的に情報発信したことにより、今後の研究等につなげることができた。[再掲_47] NaDeC構想による連携で、Matching HUB nagaokaを開催し、大学シーズの紹介や企業のニーズの把握及びマッチングを行うことで地域課題の解決に取り組んだ。また、出展大学、地域企業等の連携も促進することができた。 長岡工業高等専門学校との持続可能性社会の構築をテーマとした合同授業において、KDDIが事業プランの作成方法を担当した。	a	大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等により、能動的な企業への働きかけを行っている。その結果、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめる、今後の研究等につなげている。また、長岡工業高等専門学校との合同授業では、専門分野の異なる学生の混成チームで「ミミズを活用した持続可能性社会の提案と実装」をテーマに演習・発表を行った。学生それぞれの専門性を活かしながらデザイン思考を基にSDGsへの貢献やイノベーションを創出できる起業家マインドを育成した。	a
40	(2) 地域の企業・団体等との人的・技術的な協力関係を強化するため、研究成果を積極的かつ効果的に発信する。	52	(2) 地域の企業、団体等との協力関係をより強化するため、地域貢献に関するプロジェクト・研究成果をホームページ等にて発信する。 産学マッチングに関するイベントへの出展を通し、本学の産学連携の実績や教員のシーズをビジュアルする。 また、出展企業のシーズを知ることで共同研究等の掘り起こしに努める。	地域と連携した取組について積極的に報道リリースを行い、地域貢献や産学等連携の事例について発信することに努めた。 また、地域協創センターを窓口としたプロジェクトを含め、全学的に実施した地域との連携プロジェクトや授業実績を集約し、ホームページを中心に発信した。 燕三条ものづくりメッセ、Matching HUB nagaoka、Matching HUB北陸など、産学マッチングイベントに積極的に出展し、本学の産学連携の実績や教員のシーズをPRするとともに、出展企業等の潜在的なシーズ・ニーズを掘り起こし、具体的な連携相談のあった4企業と研究等にむけて調整を行った。	a	大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等による能動的な企業への働きかけにより、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめている。産学マッチングイベントでは、出展企業のシーズ・ニーズを掘り起こし、4企業から連携相談を受け今後の研究につなげるという成果をあげている。	a
41	(3) NaDeC構想に基づき、長岡市中心市街地に整備される研究拠点を活用し、職員・学生が地域社会と協力して研究・調査等を推進する。	53	(3) 長岡市中心市街地において令和5年に一部完成する米百俵プレイスマライエ長岡の活用を前提とし、地域社会と協力した研究・調査を先行実施する。	長岡工業高等専門学校のアントレプレナーシップ演習と本学「地域協創演習」の合同授業をNaDeC BASEで実施し、異なる分野の学生がデザイン思考をもとに混成チームでプロジェクトに取り組んだ。 米百俵プレイスで子どもラボの取組の試行として「子ども未来ラボ デザイン思考ワークショップ」を長岡市と連携し実施した。 また、米百俵プレイスマライエ長岡に入居予定の企業と今後のミライエ長岡での研究を含む活動について準備を行った。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
42	<p>4 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>デザインの創造性にテクノロジーの発展性を掛け合わせ、人々の暮らしをより楽しく豊かにすることを目指して、新しい学科を創設する等、時代の変化を見据えた教育研究組織の見直しを行う。[再掲]</p> <p>デザインの創造性にテクノロジーの発展性を掛け合わせ、人々の暮らしをより楽しく豊かにすることを目指して、新しい学科を創設する等、時代の変化を見据えた教育研究組織の見直しを行う。[再掲]</p>	54	<p>4 教育研究組織の見直しに関する目標を達成するための措置</p> <p>令和5年度より造形学部を4学科から3学科に再編する。デザインの領域拡大や融合に柔軟に対応すべく「プロダクトデザイン」「テクノロジー×デザイン」「視覚デザイン」の領域で構成する「デザイン学科(入学定員150人)」を新設し、既存の「美術・工芸学科(入学定員30人)」、「建築・環境デザイン学科(入学定員50人)」と合わせ3学科体制とする。組織体制の変更に伴い、次の事項に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度入学者カリキュラムの運営準備 学生募集活動及び入学試験の実施 人員配置 新校舎建設を含む施設設備の再整備 <p>[再掲]</p>	<p>令和5年度からの学科再編、新たなカリキュラムの編成について文部科学省への届出を完了するとともに、以下の事項を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度入学者カリキュラムの運営に向けてカリキュラム表、シラバス、モデルカリキュラムの作成等を行なった。 学生募集活動、入学試験を実施し、令和5年度の入学者を決定した。 3人の専任教員を採用し、うち2人は先進的に社会で活躍する者をテクノロジー×デザイン領域に配置した。 第4アトリエ棟(仮称)等整備基本計画に基づき、令和6年秋に供用開始する新校舎の基本設計及び実施設計を完了し、既存校舎については教室・備品を中心に段階的な整備を実施した。[再掲_27] 	b		b
④	<p>【研究の成果に関する指標の目標値】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域貢献に関する研究・プロジェクト数 25件：毎年度 	④	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献に関する研究・プロジェクト数 25件 	<ul style="list-style-type: none"> 地域貢献に関する研究・プロジェクト数 43件 <p>デザイン研究開発受託研究・共同研究計14件、地域協創センタープロジェクト3件(原信コラボラトリー、レクサス長岡展示、東横INN燕三条駅前店ギャラリー展示)、(学部)地域協創演習・ポランティア実習計15件、(大学院)地域特別プロジェクト演習・特別プロジェクト研究演習計3件、長岡芸術工事中2022、いのプロ3件、キャンドルナイト@与板、中学校美術部作品展、ペット用トイレデザイン、平安時代刀再現</p>	100% 超かつ 顕著な 成果	目標値を大幅に上回っている。	年度計画を大幅に上回る
⑤	<ul style="list-style-type: none"> 大学として実施した研究成果の発表件数 10件：毎年度 	⑤	<ul style="list-style-type: none"> 大学として実施した研究成果の発表件数 10件 	<ul style="list-style-type: none"> 大学として実施した研究成果の発表件数13件 <p>研究紀要、リポジトリ(デジタル資料等をまとめたデータベース)、地域協創センター・文化振興センター報告書、Webオープンキャンパス、燕三条ものづくりメッセ、Matching HUB nagaoka、Matching HUB北陸、建築・環境デザイン学科教員展、美術・工芸学科教員展、長岡芸術工事中2022、卒業・修了研究展2022(オンライン開催)、ファッションショー「PARADE」、MAKINDOグッドデザイン賞応募・受賞</p>	100% 超	目標値を上回っている。	年度計画を上回る
⑥	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の申請件数 15件：毎年度 	⑥	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の申請件数 15件 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の申請件数 18件 	100% 超	目標値を上回っている。	年度計画を上回る
⑦	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の獲得件数 5件：毎年度 	⑦	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の獲得件数 5件 	<ul style="list-style-type: none"> 外部研究資金の獲得件数 10件 	100% 超	目標値を上回っている。	年度計画を上回る

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価 R4	評価委員による評価結果 計画の実施状況等	評価区分
	第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置		第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置				
	1 地域社会との連携に関する目標を達成するための措置		1 地域社会との連携に関する目標を達成するための措置				
43	(1) 地域協創センターの事業や学部・大学院における地域連携科目等を通じて、地域の企業、高等教育機関、自治体、コミュニティなどと連携し、地域課題の解決や地域の新しい価値創造を目指した事業や研究活動を行う。	55	(1) 地域課題の解決や地域の新しい価値創造を目指し、地域協創センターを窓口、地域社会や地域の企業等と連携した受託研究と共同研究を実施するとともに、NaDeC構想による連携を含めた地域・社会連携系科目の授業運営を行う。	(1) 地域協創センターを窓口企業等と連携を進め、受託研究8件、共同研究6件の契約を締結した。地域課題解決に向けた研究や事業化を支援する大学のシーズを教員や学生とともに積極的に情報発信したことにより、今後の研究等につなげることができた。 また、燕三条ものづくりメッセ、Matching HUB nagaoka、Matching HUB北陸など、産学マッチングイベントに積極的に出展し、大学のシーズを地域・企業に知ってもらうことで、今後の研究等につなげることができた。[再掲_47] 長岡工業高等専門学校のアントレプレナーシップ演習と本学「地域協創演習」の合同授業をNaDeC BASEで実施し、異なる分野の学生がデザイン思考をもとに混成チームでプロジェクトに取り組んだ。[再掲_53] 令和5年度から開講する「長岡学」の準備を各団体と連携しながら進めた。	a	大学のシーズの積極的な情報発信や産学マッチングイベントの出展等により、能動的な企業への働きかけを行っている。その結果、大学の教育内容や教員の研究分野と企業とのより適切なマッチングをすすめ、今後の研究等につなげている。	a
44	(2) 市民工房やこどもものづくり大学校等を通じて、幅広い年齢層の市民などに生涯学習の機会を提供する。	56	(2) 社会人の生涯学習の場として、市民工房を開講する。卒業生の活用や講座種別の見直しを図り、新たな企画を実施する。	(2) 硝子・陶芸（前期のみ）・漆芸・木工（前期のみ）・染織の5講座を企画し、講座ごとに受講者の興味と経験に合わせたクラス設定により開講し、延べ239人が受講した。 また、高校生以上を対象としたポートレート講座、長岡市内でデザイナーとして活躍する卒業生を講師とした中学生対象のポスターデザイン講座など、新たな企画を実施した。	b		b
		57	(3) 小学生を対象にこどもものづくり大学校を開講し、中高校生を対象に美術・デザインを学ぶ機会を提供する。	(3) こどもものづくり大学校は、新型コロナの情勢をみながら実施計画の拡大を図り、ガラス、クラフト、デジタル等をテーマに全8種類の講座を開講した。大学ホームページ上にアーカイブ動画を掲載し、講座のプロモーションを行った結果、小学3年生から6年生の延べ158人の参加があった。 中学生向け講座は、本学学生3人と中学校を訪問し、最近の話題や興味関心を中学生から直接ヒアリングした上で講座を企画した。グラフィックソフトでイラストを組み合わせて1枚のポスターを作る講座を実現し、13人が受講した。	a	オンラインで1講座15人程度の受講を計画していたものを、感染対策を徹底したうえで、対面により1講座20人に拡大して実施した。 また、アーカイブ動画をホームページに掲載することでさらに多くの小学生に学ぶ機会を提供している。 中学生向け講座は、既存の講座を見直し、大学の幅広い教育分野を提供すること及びより中学生の興味関心の高い内容とすることを目的に、事前ヒアリングを基に1から講座内容をつくりあげる工夫をしている。	a
45	(3) 地域の文化の発展に寄与するため、芸術文化に関する諸団体等と連携し、各種の文化活動の発表や市民の交流の場を提供する。	58	(4) 諸団体等と連携し、長岡市中学校美術部作品展、長岡芸術工事中、亀倉雄策賞展等の展示や講座などの企画を実施する。	(4) 長岡市中学校美術部作品展は3年ぶりに対面で開催し、市内中学校13校約230人が作品を出品、595人の一般来場があった。遠方からいつでもアクセスできるWebならではの利点を活かし、特設サイト上でも作品を公開した。 長岡芸術工事中は、本学と長岡悠久ライオンズクラブが主催、長岡市とながおか・若者・しごと機構が共催となり、長岡の中心市街地6会場を拠点に学生や卒業生が制作した様々な分野の作品を展開した。 亀倉雄策賞展は372人の一般来場があり、開催を記念した受賞者講演会は96人が聴講した。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
46	2 産業振興に関する目標を達成するための措置 地域の産業振興に寄与するため、NaDeC構想に基づき、地域の高等教育機関、企業、自治体、金融機関等と連携し、新たな価値の創造に向けたプロジェクトや社会人対象のデザイン教育を実施する。	59	(5) 教員や学生の活動、教育研究や地域連携の成果を発信する場として展示館を活用する。 また、大学施設を活用し、市民オープンキャンパス等の地域に向けた企画を実施し、その成果をホームページを利用して積極的に公開する。	(5) 大学の教育研究等の成果を発信する場として活用している展示館では、建築・環境デザイン学科教員展、美術・工芸学科教員展の2回の企画展及び丸山正三氏の絵画の作品展を1回開催し、延べ2,305人の来場者があった。企画展の内容をアーカイブとして大学ホームページに掲載したほか、活動報告冊子の制作を行った。 また、地域に向けた企画として本学の専門的な設備・機器等を活用し、デザインの楽しさを体感できるデザイン講座を開講した。ポートレート撮影会とイラストポスターデザインは専任教員等の講習会も実施した。 さらに、市民オープンキャンパスは卒業・修了研究展との相乗効果を狙い、企業を招待し、作品の解説や学科再編の紹介を行うとともに、より多くの市民や企業から教育成果をみってもらう機会を創出した。	b		b
		60	(6) 長岡市、諸団体と連携し、デザインを学ぶ機会を提供する。 ①まちなかキャンパス長岡への参画（市民対象） ②長岡市熱中！感動！夢づくり教育への参画（小学生対象） ③デザイン思考関連の講座（小中学生対象） ④デジタルデザイン関連の講座（小学生対象）	(6) ①まちなかキャンパス長岡の運営協議会委員に3人、講師に5人の専任教員と、学生委員に2人を派遣し、講座の運営に参画した。 ②長岡市熱中！感動！夢づくり教育への参画では、令和4年8月に専任教員2人が2講座を実施し、小学生40人が受講した。 ③令和4年10月に長岡市米百俵財団が主催する「米百俵未来塾」で、本学の専任教員がデザイン思考ワークショップを行い、小中学生25人が受講した。 ④地方創生に向けた産業創造連携協定を結んでいるKDDI株式会社と連携し、令和4年12月にプログラミング言語「IchigoJam BASIC」を使ったオリジナルゲームづくり体験プログラムを開催し、小学生34人が受講した。	a	長岡市、諸団体との連携により、幅広い世代のデザインを学ぶ機会の創出に寄与している。 「米百俵未来塾」のデザイン思考ワークショップでは、「他者と協力をしながら解決する」という内容が好評となり、令和5年度も同内容でのワークショップ開催が決まるなど、デザインの学びに關しての地域貢献を継続して実施している。また、産業創造連携協定を結んでいるKDDI株式会社と連携し、プログラミング言語「IchigoJam BASIC」を使ったオリジナルゲームづくり体験プログラムを小学生に提供した。	a
		61	2 産業振興に関する目標を達成するための措置 NaDeC構想のもと、他大学等と連携した共同授業や産学マッチングを促進するイベントを実施する。 また、自治体職員や企業人を対象としたデザイン教育を実施する。	産学マッチングイベントMatching HUB nagaokaを初めて開催し、産学マッチングを促進した。それにより共同研究に関する相談があった。また、「M-BIP Nagaoka 2022」、「長岡未来デザインコンテスト」、「リーン・ローンチパッド・プログラム」に本学学生が他大学の学生と参加した。 長岡工業高等専門学校のアントレプレナーシップ演習と本学「地域協創演習」の合同授業をNaDeC BASEで実施し、異なる分野の学生がデザイン思考をもとに混成チームでプロジェクトに取り組んだ。【再掲_53.55】 デザイン思考に関する研修を、長岡市職員を対象に16回、一般の方を対象に4回（オンライン）、企業等を対象に5回実施した。一般対象のオンライン講座をきっかけに大手企業の社員向け講座を依頼されるなど、デザイン思考に関する講座の実施も増えている。	a	他大学、関係団体と連携して産学マッチングイベントMatching HUB nagaokaを初めて開催し、産学マッチングを促進した。 能動的な企業への働きかけの結果、共同開発に関する相談が4件あるなど、今後につながる成果をあげている。 また、長岡市をはじめ、企業や一般の方へのデザイン思考講座を積極的に実施し、地域の人材育成に寄与している。	a

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価 R4	評価委員による評価結果 計画の実施状況等	
						評価区分	
47	3 若者の長岡への定着に関する目標を達成するための措置 (1) 市内高校生を対象とする大学説明会や個別相談会の開催等、きめ細やかな広報活動を展開するとともに、市内在住の高校生及び市内高校出身者の入試優先枠を拡大し、積極的な受入れを図る。	62	3 若者の長岡への定着に関する目標を達成するための措置 (1) 長岡市内からの志願者及び合格者の増加を図るため、長岡市内高校内での本学単独の学年別相談会を実施し、学年に応じた受験準備を促す。	(1) 長岡市内からの志願者及び合格者の増加を図るため、長岡市内高校7校にて学年別の説明会を8回開催し、学年に応じた受験準備を促した。	b		b
		63	(2) 長岡市及び近隣地域を対象とした大学見学会、相談会等を開催し、長岡地域定住自立圏内からの志願者の増加につなげる。	(2) 長岡地域定住自立圏内高校を対象とした大学見学会を独自に企画し、その広報のため対象高校を訪問し参加を呼び掛けた。7校から生徒68人、引率教員7人の参加があり、施設見学に加えて本学学生及び教員との懇談の機会を設けた結果、20人の優先枠定員に対して75人の志願者確保につながった。	b		b
48	(2) 学生の長岡への愛着を育むため、長岡の自然、歴史・文化、暮らし、産業等の魅力を知り、体験する取り組みを実施する。また、学生の長岡市内企業に対する理解を深めるため、長岡市と連携しつつ、企業説明会やインターンシップを実施する。	64	(3) 学生の長岡への愛着を育むため、長岡の歴史、風土、産業等を学ぶ「長岡学」を令和5年度以降入学者カリキュラムにて開講することに合わせ、令和5年度から当該科目を市内4大学1高専の単位互換科目として開講するための準備を行う。	(3) NaDeC授業連携ワーキンググループでの検討を基に「長岡学」の授業設計を行い、令和5年度カリキュラムでの開講準備を整えた。 また、当該授業の概要を示したチラシを制作し、市内4大学1高専の単位互換科目として開講することを本学学生及び各校に周知した。	b		b
		65	(4) 長岡市内企業でのインターンシップを実施する。 また、長岡市や長岡市内高等教育機関と連携し、学生の起業支援プログラムを実施する。	(4) 公募型インターンシップとして長岡市内2社のプログラムを実施し、延べ5人の学生が参加した。また、長岡市が市内高等教育機関と連携して実施する学生起業支援プログラムへの参加を促した。	b		b
49	(3) 卒業生に対し、校友会と連携しつつ、求人情報の提供や就職相談等のキャリア支援を行う。 【地域貢献の成果に関する指標の目標値】	66	(5) 校友会と連携し、校友会ホームページから申請することにより卒業生の求人検索システムを利用可能とする。 【地域貢献の成果に関する指標の目標値】	(5) 校友会と連携し、卒業生に中途採用の求人情報を提供した。卒業生7人より転職に関する相談を受け就職に結びついた。	b		b
⑧	・地域貢献に関する研究・プロジェクト数 25件：毎年度 [再掲]	⑧	・地域貢献に関する研究・プロジェクト数 25件 [再掲]	・地域貢献に関する研究・プロジェクト数 43件 デザイン研究開発受託研究・共同研究計14件、地域協創センタープロジェクト3件（原信コラボラトリー、レクサス長岡展示、東横INN燕三条駅前店ギャラリー展示）、(学部)地域協創演習・ボランティア実習計15件、(大学院)地域特別プロジェクト演習・特別プロジェクト研究演習計3件、長岡芸術工事中2022、いのプロ3件、キャンドルナイト@与板、中学校美術部作品展、ペット用トイレデザイン、平安時代刀再現 [再掲_④]	100% 超かつ顕著な成果	目標を大幅に上回っている。	年度計画を大幅に上回る
⑨	・市民工房受講者数 延べ500人：毎年度	⑨					
⑩	・小中高生を対象とする本学主催の講座受講者数 延べ150人：毎年度	⑩	・小中高生を対象とする本学主催の講座受講者数 延べ150人	・小中高生を対象とする本学主催の講座受講者数 延べ171人	100% 超	目標値を上回っている。	年度計画を上回る
⑪	・マスメディアによるパブリシティ回数 200件：毎年度	⑪	・マスメディアによるパブリシティ回数 200件	・マスメディアによるパブリシティ回数396件	100% 超かつ顕著な成果	目標を大幅に上回っている。	年度計画を大幅に上回る

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
	第4 業務運営等に関する目標を達成するための措置		第4 業務運営等に関する目標を達成するための措置				
	1 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置		1 業務運営の改善に関する目標を達成するための措置				
	(1) 運営体制の改善		(1) 運営体制の改善				
50	ア 民間的発想や第三者的視点を取り入れ、社会のニーズに的確に対応した、効率的な大学運営を行うため、理事会、経営審議会・教育研究審議会に外部有識者を登用する。	67	ア 理事会、経営審議会、教育研究審議会においては、外部有識者の民間的発想や専門的な知見を取り入れる。	ア 理事に2人、経営審議会に5人、教育研究審議会に2人の学外有識者を登用し、専門的知見を活用した。	b		b
51	イ 問題を未然に防止し、適正かつ健全な大学運営を行うため、業務運営や予算執行状況について厳格な内部監査及び監事監査を実施する。	68	イ 内部監査及び監事監査により、業務及び会計の適正性を確保する。	イ 適正な業務運営と改善のために内部監査及び監事監査を実施した。内部監査では就職支援に関する業務監査と、支出（報酬謝金、旅費、交際費等）に関する会計監査を実施した。	b		b
52	ウ 理事会、経営審議会、教育研究審議会等の連携を密にするとともに、教授会、研究科委員会などにより職員間の情報共有を図り、自律的、弾力的、効率的な大学運営を行う。	69	ウ 理事会をはじめとする法人会議と教授会をはじめとする学内会議の連携を密にする。 また、教授会、研究科委員会などにより職員間の情報共有を図る。	ウ 理事会、経営審議会及び教育研究審議会の審議事項について、教授会及び研究科委員会で報告を行った。 また、教授会及び研究科委員会では各種委員会の報告を行うことで学内連携の強化を図った。	b		b
	(2) 適正な人事の実施		(2) 適正な人事の実施				
53	ア 職場内のコミュニケーションや職員の意欲の向上に配慮しつつ、人事評価制度の運用、改善を行い、能力や業務実績等の的確な把握に基づく適正な人事を行う。	70	ア 職場内のコミュニケーションや職員の意欲の向上に配慮しつつ、人事評価制度の運用、改善を行い、能力や業務実績等の的確な把握に基づく適正な人事を行う。	ア 事務職員、教員それぞれの人事評価制度について、被評価者研修の実施や記入様式の改正などにより運用の改善を行い、能力や業務実績等の的確な把握による人事を行った。	b		b
54	イ 財源や人的資源に限られる中で、新たな課題への対応やワークライフバランスの確保に向けて、職員の適切な人事配置、既存の業務の徹底的な見直し（廃止、統合、効率化等）を進める。	71	イ 新たな課題への対応やワークライフバランスの確保に向けて、適切な人事配置を行う。	イ 新たな課題への対応やワークライフバランスの確保に向けて、教員役職者を再編し、事務局編成においては課系の統廃合によるスリム化を行い、業務の効率化を図った。	b		b
	(3) 事務の効率化及び合理化		(3) 事務の効率化及び合理化				
55	ア 事務職員の業務分野や職能に応じた能力開発や研修を積極的に推進する。	72	ア 公立大学協会をはじめ学外主催の研修会等に積極的に職員を参加させる。また、事務の効率化及び合理化に取り組むため、オンライン研修を積極的に活用する。	ア 日時に捉われず、随時受講が可能な大学職員の育成に特化したWEB研修講座を導入するとともに、対面の研修会等への参加の機会を増やし、状況に応じた効果的なスキルアップを図った。	b		b
56	イ 事務処理の効率性や合理性を高めるため、外部委託を有効に活用する。	73	イ 事務処理の効率性や合理性を高めるため、外部委託を有効に活用する。	イ 専門性の高い業務に関して社会保険労務士、税理士、デザイナーなどと委託契約を締結して業務に取り組んだ。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
57	<p>ウ 財源や人的資源に限られる中で、新たな課題への対応やワークライフバランスの確保に向けて、職員の適切な人事配置、既存の業務の徹底的な見直し（廃止、統合、効率化等）、カリキュラムの簡素・合理化を進める。</p> <p>2 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 経営の安定化に向けた自己収入の確保</p>	74	<p>ウ 新たな課題への対応やワークライフバランスの確保に向けて、既存業務の見直しを行う。</p> <p>2 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置</p> <p>(1) 経営の安定化に向けた自己収入の確保</p>	<p>ウ 文書管理システム及び規程管理システムを導入し、押印の省略や学外での決裁処理、またペーパーレス化を推進するなど事務効率の向上を図った。</p>	b		b
58	<p>ア 科学研究費補助金等の助成金に関する情報収集の強化と、教員への情報提供・共有を一体的に進める。その上で、助成金等の積極的な申請、受託研究や共同研究の掘り起こしなど、外部資金獲得のための取り組みを強化する。</p>	75	<p>ア 外部機関による支援制度の活用や研修会などに積極的に参加することにより、科学研究費補助金等の情報を収集し、より工夫した学内研修会等で活用する。</p>	<p>ア 科学研究費補助金等の情報収集や採択率の向上のため、採択実績豊富な他大学が提供する申請書類添削サービスや学内から参加できるオンラインセミナーを広く教員へ周知した。</p>	b		b
		76	<p>イ 受託研究や共同研究への接続を視野に、地域協創センターを窓口にした企業等へのデザイン研修を実施する。 また、企業訪問により企業シーズ・ニーズを把握し、共同研究等の掘り起こしに努める。</p>	<p>イ デザイン思考に関する研修を、長岡市職員を対象に16回、一般の方を対象に4回（オンライン）、企業等を対象に5回実施した。一般対象のオンライン講座をきっかけに大手企業の社員向け講座を依頼されるなど、デザイン思考に関する講座の実施も増えている。[再掲_61]</p>	b		b
59	<p>イ 本学の特色を生かした有料講座の実施や、大学施設の有料貸出し等、自己収入の確保に努める。</p>	77	<p>ウ こどもものづくり大学校など本学の特色を生かした有料講座を実施するほか、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら大学施設の有料貸出しを行う。</p>	<p>ウ こどもものづくり大学校、市民工房のほか、幅広い年代を対象にしたデザイン講座を実施した。 大学施設の有料貸出しは、新型コロナウイルス感染防止のため前年度に続いて中止とした。</p>	b		b
60	<p>ウ 学生納付金は、教育内容や社会情勢等を反映した適正な水準となるように適宜見直す。</p> <p>(2) 予算の効率的な執行</p>	78	<p>エ 学生納付金は、教育内容、財務状況、他の国公立大学の動向等を勘案して適正な金額を決定する。</p> <p>(2) 予算の効率的な執行</p>	<p>エ 収容定員の充足状況、運営費交付金の交付状況、他の公立大学の動向を総合的に判断し、学生納付金を前年同額とした。</p>	b		b
61	<p>契約方法や事務処理の見直しを通じて業務運営の徹底した効率化・合理化を図り、経費を節減する。また、職員のコスト意識を向上し、日常的に節電・節水等を徹底する。</p>	79	<p>ア 経費節減効果のある契約内容、契約方法を検討し、効率的かつ適正な予算執行を行う。</p>	<p>ア 事務用品（封筒、コピー用紙、プリンタトナー）や灯油は、年間の使用数量に基づいて契約することで、大量発注による単価の引き下げを行った。 また、法人名義のクレジットカード決済で購入先の選択肢を広げることによって、経費節減に努めた。</p>	b		b
		80	<p>イ 電気使用量のデマンド管理等を行い、光熱水費の削減に努める。また、白黒コピーの標準設定、両面印刷の推奨等により、コピー料金の削減を図る。</p>	<p>イ 電気量のデマンド管理や下水メーターにより下水道の使用量を把握し、光熱水費の削減を行った。 また、こまめな消灯による節電や経済的なコピー機の利用法について定期的に呼びかけを行い、学生や職員のコスト意識の向上を図った。</p>	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
62	(3) 資産の適正な運用管理 ア 定期的に学内の施設設備を調査点検し、必要な修繕を行うとともに、中長期修繕計画に基づき施設設備の維持管理や更新を計画的に行う。	81	(3) 資産の適正な運用管理 ア 中長期修繕計画に基づき学内の施設設備の修繕や更新を行うとともに、学内の劣化状況等を確認し、状況に応じて中長期修繕計画の見直しと更新を行う。	ア 中長期修繕計画に基づき本部棟外壁ほか改修工事（2か年計画のうち1年目）を行い、施設設備の長寿命化を図った。 また、施設設備の劣化状況を確認し、その結果を踏まえて令和5年度の工事内容を最終決定するとともに、令和6年度以降の計画の見直しと更新を行った。	b		b
63	イ 学校法人から承継した資金について、低リスク金融商品の利用等による安全確実な運用を図る。	82	イ 学校法人から承継した資金について、定期預金を第一に、低リスク金融商品の利用による安全確実な運用を行う。	イ 学校法人から承継した資金については、短期間の定期預金で流動性を確保しつつ、令和2年度に取得した地方債による安全確実な運用収入を確保した。	b		b
64	3 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標を達成するための措置 (1) 自己点検・評価 自己点検・評価を実施した上で、各年度における長岡市公立大学法人評価委員会による評価を受けるとともに、令和4年度までに認証評価機関による評価を受審し、結果を公表する。また、評価結果を踏まえ、教育研究の質の向上や業務運営の改善に取り組む。	83	3 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標を達成するための措置 (1) 自己点検・評価 自己点検・評価を実施したうえで、長岡市公立大学法人評価委員会及び大学教育質保証・評価センターによる評価を受け、教育研究の質の向上や業務運営の改善を行う。	業務実績に関する自己評価を行うとともに、長岡市公立大学法人評価委員会による評価を受けた結果、教育研究組織の見直しに基づく令和5年度の学科再編に向けた根幹的な事項の決定、第4アトリエ棟（仮称）等整備基本計画の策定、また、学生の心身の健康サポートなど学びの支援が年度計画を上回ると評価され、総合的には「中期計画の進捗は順調」と認められた。 大学教育質保証・評価センターによる認証評価では、点検評価ポートフォリオの審査に加えて実地調査（オンライン）を受審し、国の大学評価基準を満たしていると認定された。 [再掲_26]	b		b
65	(2) 情報公開の推進 ア 本学の教育、研究、地域貢献等の活動に対する理解の促進と支持の拡大を図るため、テレビや新聞などの様々なメディアを活用し、積極的かつ効果的に情報を発信する。また、プロモーションの充実を図るため、ホームページの改善等、広報活動の強化をすすめる。	84	(2) 情報公開の推進 ア 大学の広報戦略の展開と効果測定を実施し、教育、研究、地域貢献等の活動について、ホームページ、SNSや新聞、テレビなどを活用して広く情報を発信する。 また、令和5年度の学科再編及び教育内容についての広報を重点的に行う。	ア 広報プロジェクトチームにて検討した広報計画に従い、本学ホームページで教員や学生の活躍、学生作品、特色のある大学施設などを紹介するWebマガジン「NIDFocus」では15件の記事を掲載したほか、138件の新着情報の発信、34件のイベントの紹介、101件の更新を実施した。 また、SNSに479件の投稿を行い、学科再編及び教育内容に関する情報をはじめ、教員及び学生の研究や地域貢献活動、受賞などの教育研究成果の発信を行った。 7月からは本学の認知拡大を目的に、広報プロジェクトチームリーダー主導のもと、新たな広告動画を作成し、YouTubeやTwitterなどでの配信を開始した。その結果、効果測定においてホームページアクセス数は前年より14,759件増加、ユーザー数は前年比10%の増加、新規ユーザー数も前年比10%増加した。	a	ホームページや各種SNSを積極的に活用し、大学に関する情報を幅広く発信している。 「NIDFocus」では教員、学生や卒業生の活躍の様子、学生の作品、大学施設などの大学の魅力1つ1つに焦点をあて、写真やインタビューなども交えた伝わりやすく効果的な発信をしている。 結果として、ホームページアクセス数、ユーザー数ともに増加するという成果をあげている。	a
66	イ 業務運営の透明性を高めるため、ホームページ等を通じ、教育研究活動や業務運営活動などに関する情報を積極的に公開する。	85	イ 業務運営の透明性を高めるため、ホームページ等を通じ、教育研究活動や業務運営活動などに関する情報を積極的に公開する。	イ 業務運営の透明性を確保するため、組織、計画・評価、財務、規程、会議録等の法人情報をホームページで公開した。	b		b

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
	4 その他業務運営に関する目標を達成するための措置		4 その他業務運営に関する目標を達成するための措置				
	(1) 社会的責任を果たすための取り組み		(1) 社会的責任を果たすための取り組み				
67	ア 適正な業務の執行並びにハラスメント及び研究不正の防止を目的とする研修会や啓発活動等を実施し、人権擁護及びコンプライアンスの徹底に取り組む。	86	ア 適正な業務の執行並びにハラスメント及び研究不正の防止を目的とする研修会や啓発活動等を実施し、人権擁護及びコンプライアンスの徹底に取り組む。	ア 公的研究費の不正使用防止に係る啓発活動を4回実施し、コンプライアンスの徹底に取り組んだ。 また、情報セキュリティに対する意識レベルをあげるため、職員研修の実施や標的型攻撃メール訓練を実施した。	b		b
68	イ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動を実践するとともに、中長期修繕計画等に基づく施設設備の更新の機会などを活用し、省エネに配慮した施設設備の整備に努める。	87	イ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）活動の実践として再生品、エコマーク商品等の物品の使用、購入に努める。また、環境への配慮と経費節減等の面から、第2アトリエ棟の照明をLED化する。	イ 事務用コピー用紙はグリーン購入法総合評価値85以上のもの、また事務用プリンタのトナー、インクカートリッジは使用後の回収と再製品化が可能なものの購入に努めた。事務用品等はグリーン購入法適合、エコマーク認定等の商品を指定し、詰め替えが可能なものを優先して購入した。 また、校舎共用部、第2アトリエ棟の照明をLEDライトに取り換え、経費の削減と環境への配慮を行った。	b		b
69	(2) 施設設備の整備、活用 ア 新しい学科の創設等、時代の変化を見据えた教育研究組織の見直しに合わせて必要な施設設備の整備を行う。	88	(2) 施設設備の整備、活用 ア 令和5年度からの造形学部の新学科体制及び令和5年度以降入学カリキュラムの実施に対応し、施設設備の整備基本計画に基づき、テクノロジー×デザイン領域の教育研究活動の推進及びデジタルテクノロジーを活用したデザインの全学的な活性化を目指して、新棟の基本設計・実施設計を行う。	ア 第4アトリエ棟（仮称）等整備基本計画に基づき、テクノロジーとデザインの掛け合わせを誘発する教育研究活動を推進するため、プロトタイプングルーム、デジタルデザインアトリエ、映像・オーディオに係るスタジオ等の整備・拡充に向け、基本設計及び実施設計を完了した。	b		b
70	イ 「キャンパスまるごとデザインの教材」というコンセプトの下、費用対効果や既存の施設設備の有効活用に留意しつつ、時代の性能水準等に即し、教育効果の高い施設設備の整備を行う。[再掲]	89	イ 令和5年度の学科再編を踏まえ、必要となる設備、機器について、時代の潮流及びデザインを考慮し整備する。[再掲]	イ 令和5年度の学科再編やカリキュラム再編を踏まえ、カリキュラムとの連動を考慮し、機能性と意匠性を兼ね備えた教室・アトリエ空間を整備した。 また、フレキシブルに実施できるデザイン思考のワークショップに適した机・椅子の入替、多目的に使用できる中規模人数を収容する演習室への改修、操作卓の機能を兼ね備えた教卓の整備などを行い、学生が日常的に触れる什器においても優れたデザインのものを取り入れた。[再掲_24]	a	令和5年度の学科再編や新たなカリキュラムを踏まえ、学生が能動的に学修する演習にフレキシブルに対応できるよう教室や什器等の環境を整備している。 機能性と意匠性を考慮し開発された多様な什器の設置は、学生が日常的に使用感を試すことや新たな使い方を模索することなど、教材としても活用され、「キャンパスまるごとデザインの教材」というコンセプトを体現している。	a
71	ウ 工房、アトリエ、スタジオ、コンピュータ室、プロトタイプングルーム、教員・学生・卒業生作品の展示スペース等の施設設備、パソコンのソフトウェアなどの維持管理・更新・整備を適切に行う。[再掲]	90	ウ アドビクリエティブクラウド等の教育、研究に必要なソフトウェアを学生に提供する。 また、工房、アトリエ、プロトタイプングルーム等の施設設備の適切な維持更新を行う。[再掲]	ウ 学生が大学内外で授業の受講や制作活動を支援するため、アドビクリエティブクラウド、Zoom、3DCGソフトウェア等を継続して無料で提供した。 また、教室やアトリエ等で対面と遠隔を組み合わせた授業や発表に対応するため、主要教室への大型モニタの配置を進めた。 さらに、学生ポータルサイト「パレット」の機能性・利便性の向上を図るべく教務事務基幹システムを更新した。 くわえて、プロトタイプングルームではさらに多様な制作に対応すべくスキャン範囲の広い3Dスキャナを導入するとともに、多学年・学科で構成する学生スタッフを配置し、学生による自立的な機材や工房の管理・運営の実施及び他学生の制作サポート等を行った結果、利用が拡大した。[再掲_25]	a	アドビクリエティブクラウド等を継続して無料提供し、遠隔での授業の受講や場所を問わない制作活動で最大限活用できるように支援している。 プロトタイプングルームでは3Dスキャナの導入により立体造形物のデータ化が容易となり、出力表現する工程まで一貫してできるようになったことで学生の制作の幅が広がった。また、学生スタッフが職員と協働で管理・運営をしており、学科や学年を超えて互いに高め合える場として定着し、利用率が昨年度の約2倍に拡大している。	a

通番	中期計画	通番	R4 年度計画	計画の実施状況等	自己評価	評価委員による評価結果	
					R4	計画の実施状況等	評価区分
72	エ 既存の施設設備の利用実態を精査し、廃止や転用も含め、稼働状況の改善に向けた有効活用に全学で取り組む。	91	オ 教育研究組織の見直しに合わせて既存の施設設備全体の有効活用を図るため、用途の再配置、設備の更新、仕器の入替等を順次進める。	オ 令和4年度は以下の改修や更新等を行った。 ・102、202、203講義室を演習室に更新 ・204演習室の床面を改修 ・301コンピュータ演習室を新学科用の演習室に更新 ・円形講義室、103講義室、104、105、204演習室のプレゼンテーション用機材更新 ・2階建築・環境デザインアトリエの仕器の全面入替と軽度改装 ・撮影スタジオAの機材更新 ・プロダクトデザイン工房の軽度改装と仕器の入替 ・美術・工芸アトリエの改装 ・第3アトリエ棟1階への共同研究室2室の設置（大学院用、造形学部用各1室）	b		b
73	(3) 安全管理 ア 施設設備の利用等に伴う事故を未然に防止するため、学生・職員に対する安全講習の実施、設備・機器の定期的な点検、危険物の適正な取扱い等、不断の安全管理を徹底する。	92	(3) 安全管理 ア 施設設備の利用等に伴う事故を未然に防止するため、学生・職員に対して施設設備利用における安全管理への意識向上と学内ルール遵守の学内周知を行う。 また、新入生及び新入職員には別途安全講習会を実施する。	ア 各工房、スタジオ等の利用における安全管理への意識向上と学内ルールの遵守を徹底するために、学生には1年次に全学生を対象とした安全講習会を実施した。工房を管理する新入職員に対しては、各工房にて安全管理講習を行った。	b		b
74	イ 大規模災害に備え、災害対策マニュアルの実効性をより高めるための改善、長岡市との連携強化等、危機管理体制を充実するとともに、学生・職員に対し防災訓練などを定期的に行う。	93	イ 新入生に対し、入学直後に避難訓練を行う。また、業務継続計画・災害対策マニュアルの内容について、防災訓練の実施や設備・備蓄品の点検を通して検証し、必要に応じて更新する。	イ 新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた避難訓練を実施した。 また、業務継続計画（BCP）・災害対策マニュアルの内容について、防災訓練の実施を通して検証し、一部更新を行った。あわせて、設備・備蓄品の点検を行い、一部更新を行った。	b		b
75	ウ 学内の情報セキュリティ対策の整備と、情報セキュリティに対する意識啓発を不断に行う。	94	ウ サイバーセキュリティー対策等基本計画の策定に向けて、アウトソーシングを活用し、検討を進める。また、情報セキュリティー対策の整備と職員に対し意識啓発を継続して行う。	ウ アウトソーシングを活用し、情報セキュリティ対策の整備を行うとともに、サイバーセキュリティー対策等基本計画の策定に向けた検討を進めた。 また、情報セキュリティに対する意識啓発を継続して行うとともに、職員研修会を実施した。	b		b
76	エ 学内における衛生管理の向上を図るため、学生・職員に対し、健康診断等を定期的に実施するとともに、学校医・産業医、カウンセラー、医務室職員を配置し、きめ細やかな相談対応等の支援を行う。	95	エ 学生・職員に対し定期健康診断を実施するとともに、学校医・産業医・カウンセラー等と連携して学内における衛生管理を行う。とくに、感染症対策の動向を注視し、速やかな情報収集に努め適切な対応を図る。	エ 学生・職員に対し定期健康診断を実施し、学校医・産業医から適切な指導を受けた。学生相談では、対面とオンラインを併用したカウンセリングを実施し、コロナ禍において柔軟な対応を行った。 また、コロナ禍におけるインフルエンザの同時流行に備え、予防接種の費用支援及び学内での接種の機会を設けた。	b		b

Ⅲ 参考資料

1 公立大学法人長岡造形大学 第2期中期目標(令和2年度～令和7年度)

前文

長岡造形大学は、平成6年の開学以来、新しい時代・社会を担う人材の養成と、地域社会と協力しながら、地域課題の解決や地域資源の発掘などに取り組んできた。

人口減少をはじめとする様々な問題や人工知能に代表される科学技術の進歩により、社会はあらゆる分野で転換期を迎えようとしている。このようななか、豊かな感性と確かな表現力によって思いを形創る「造形・表現」としてのデザインとともに、総合的な幅広い視野と深い洞察力で社会が抱える問題の本質をとらえ、構想と試行検証を経て解決策を提示する「問題発見・解決プロセス」としてのデザインを探求し、人々の生活や産業に新たな価値を創り出すことのできる創造的人材の養成が求められている。

そして、「造形を通して真の人間の豊かさを探求し、これを社会に還元することのできる創造力を備えた人材を養成する」という建学の理念を体現し、地域はもとより、我が国及び世界の発展に貢献する人材を輩出していくことは、「米百俵の精神」を大切にす長岡市民の願いである。

長岡市は、公立大学法人長岡造形大学が、自律的、弾力的、効率的な大学運営を行い、公立大学の使命である地域貢献活動に力点を置きながら、市民に支持される魅力ある大学として成長していくために、次の点を基本に中期目標を定める。

1 地域社会を実践的な学びの場としつつ、デザインに関する知識、感性、技術・技能に加えて、ものごとに対する幅広い視野を養い、「造形・表現」としてのデザイン力と、「問題発見・解決プロセス」としてのデザイン力を身に付け、人間的に豊かな社会の実現に貢献できる人材を養成すること。

2 時代や社会の要請に応える実用的かつ実践的な研究を地域社会と協働で進めるとともに、高度な専門性に基づくデザインの知識と技術の向上とデザインの役割や対象領域の拡大を幅広く探求すること。

3 市民、企業、教育機関、自治体との連携を強化し、それぞれの特長を生かしながら協働して、デザインを通じ地域課題の解決や新たな地域価値の創造に貢献すること。さらに、そのプロセスや成果は地域にとどまらず、広く我が国及び世界に発信し波及させること。

4 大学を取り巻く社会情勢の変化に迅速かつ的確に対応できる運営体制を確立するため、公立大学法人制度の特性を生かし民間的手法を取り入れながら、健全で効率的な大学運営を行うこと。

第1 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

1 中期目標の期間

令和2年4月1日から令和8年3月31日までとする。

2 教育研究上の基本組織

この中期目標を達成するため、次のとおり教育研究上の基本組織を置く。

学部	造形学部
大学院研究科	造形研究科
研究機関	地域協創センター

第2 教育に関する目標

1 教育の成果、内容に関する目標

(1) 学士課程における教育

社会の要請を的確に認識し、様々な問題に対して創造的な解決策を提示するために必要な構想力と造形力を備えた人材を養成する。

(2) 大学院課程における教育

デザインの対象領域の拡大に対応しつつ、深く理論と応用を学び、新たな価値を創造するために必要な高度な専門性や深い洞察力、企画・調整力を備えた人材を養成する。

(3) 入学者受入方針

建学の理念及び教育目標の実現に向けて、目的意識や向学心が高く、優れた資質を有する人材を積極的に受け入れる。

(4) 教育課程

各専門分野の特性、学士課程と大学院課程の連続性等に留意しつつ、「造形・表現」としてのデザインと「問題発見・解決プロセス」としてのデザインを体系的に学ぶためのカリキュラムを編成する。

(5) 教育方法

学内にとどまらず、実践経験を通じて構想力、造形力を身に付ける地域社会と密着したデザイン教育や学生の主体的な学修を重視した教育に力点を置いて取り組む。また、より高い教育成果を目指して、授業形態、指導方法を不断に見直す。

(6) 成績評価

教育の質及び公正な評価を確保するため、学位授与基準と成績評価基準を厳格に運用する。

2 教育の実施体制に関する目標

(1) 教員の適切な配置と教育力の向上

質が高く、きめ細やかな教育を実現するため、専門性や企画・調整力の高い教員を適切に配置する。また、教員の教育力の向上を図るための組織的な取り組みを推進する。

(2) 教育環境の整備

教育内容の変化や技術の進展に対応し、費用対効果に留意しつつ、施設設備など教育環境の充実を図る。また、経年による機能低下に対応し、適切な維持管理・更新に取り組む。

(3) 教育活動の評価及び改善

教育活動について、学生授業評価等を踏まえた内部検証を行うとともに、外部による客観的な評価を実施し、それらの結果を教育活動に反映させ改善を図る。

(4) 教育研究組織の見直し

時代の変化に対応しつつ常にデザインに対する社会の要請や学修需要に的確に答えていくとの観点から、不断に教育研究組織の在り方を検証し、その結果を踏まえて適切に見直しを行う。

3 学生への支援に関する目標

(1) 修学・生活支援

学内外での学生の活動状況に目配りし、学生が安心して充実した生活を送れるよう、心身の健康管理、生活相談などを行うとともに、学習意欲の維持・向上や困難の解消に向けたきめ細やかな修学支援を行う。

(2) 就職・進学等支援

学生が適切に進路選択を行えるよう、低学年次からキャリア形成教育を実施するとともに、個々の状況に即した情報提供や助言など充実した就職・進

学支援等を行う。

4 国際化に関する目標

国際的な視野を持つ人材や海外で活躍することのできる人材の育成を図るため、国際交流協定締結校との間での交換留学等の相互交流や、国際的な発表の場への積極的な参加を推進する。また、広く留学生の受入れを進める。

第3 研究に関する目標

1 研究の内容及び水準に関する目標

「造形・表現」及び「問題発見・解決プロセス」の両面において、デザインの質の向上と可能性の拡大を幅広く探求するとともに、時代や社会の要請に応える実用的かつ実践的な研究を進める。

2 研究の成果に関する目標

研究成果の有効活用を図るため、蓄積された教員・学生の研究成果を体系的に整理し、幅広く公開する。

3 研究の実施体制に関する目標

研究力の深化を図るため、地域の企業、高等教育機関、自治体、コミュニティ等との連携を強化し、その研究成果を発信することにより、様々な研究課題に取り組むための体制や、外部からの支援・協力を得ることが可能な研究実施体制を構築する。また、学内にとどまらず、まちなかでの実践的な研究が実施できるよう、環境を整備する。

4 教育研究組織の見直しに関する目標

時代の変化に対応しつつ常にデザインに対する社会の要請や学修需要に的確に対応していくとの観点から、不断に教育研究組織の在り方を検証し、その結果を踏まえて適切に見直しを行う。[再掲]

第4 地域貢献に関する目標

1 地域社会との連携に関する目標

地域社会と協働し、デザインを通じた地域課題の解決や新たな地域価値の創造を目指す。また、子どもから大人まで生涯にわたる学習機会を提供し、文化活動の振興に貢献する。

2 産業振興に関する目標

企業、自治体、教育機関、金融機関等と連携し、研究成果や人的資源を生かして事業支援を行うことで、地域の産業振興に貢献する。

3 若者の長岡への定着に関する目標

市内在住の高校生及び市内高校出身者の積極的な受入れを図る。また、卒業後における長岡への定着促進にも資するよう、市内企業及び自治体と連携した学生及び卒業生に対するキャリア形成支援に取り組む。

第5 業務運営等に関する目標

1 業務運営の改善に関する目標

(1) 運営体制の改善

公立大学法人制度の特性を生かした自律的、弾力的、効率的な大学運営を行う。

(2) 適正な人事の実施

職員の意欲を高めつつ、教育研究活動や業務運営の質的向上等を図るため、評価制度を不断に見直しつつ、適正な人事を行う。

(3) 事務の効率化及び合理化

事務職員の資質と能力を高めるとともに、事務処理の効率化及び合理

化に取り組む。

2 財務内容の改善に関する目標

(1) 経営の安定化に向けた自己収入の確保

学生納付金による収入については、適切な金額設定により、安定した収入の確保に努める。また、競争的研究資金、受託研究、共同研究、寄付金、受講料等の外部資金の獲得に積極的に取り組む。

(2) 予算の効率的な執行

教育研究の水準の維持向上に配慮しながら、業務運営の徹底した効率化と合理化により経費節減に努める。

(3) 資産の適正な運用管理

所有する資産について、常に正確に状況を把握するとともに、効果的な活用方法を検討し、適正な運用管理を行う。

3 自己点検・評価及び情報公開の推進に関する目標

(1) 自己点検・評価

教育研究及び業務運営の改善に資するため、自己点検・評価の定期的な実施とともに、第三者機関による外部評価を受け、結果を公表する。

(2) 情報公開の推進

社会に対する説明責任を果たすとともに、広く大学への理解と支持を得るため、教育研究活動、地域貢献活動及び運営状況について積極的な情報発信に取り組む。

4 その他業務運営に関する目標

(1) 社会的責任を果たすための取り組み

公立大学法人としての社会的責任を果たすため、法令遵守の徹底や環境配慮の実践等に組織的に取り組む。

(2) 施設設備の整備、活用

教育内容の変化や技術の進展に対応し、費用対効果に留意しつつ、施設設備など教育環境の充実を図る。また、経年による機能低下に対応し、適切な維持管理・更新に取り組む。[再掲]

また、施設設備の有効活用を図る。

(3) 安全管理

学内の安全衛生管理の向上に努めるとともに、様々なリスクを想定して危機管理に取り組む。

Ⅲ 参考資料

2 公立大学法人長岡造形大学 各事業年度の業務実績評価(年度評価)実施要領

1 趣旨

この要領は、地方独立行政法人法第78条の2の規定及び当該規定に基づき定められた市規則(公立大学法人長岡造形大学の業務運営並びに財務及び会計に関する規則)に基づき、長岡市公立大学法人評価委員会(以下「評価委員会」という。)が行う公立大学法人長岡造形大学(以下「法人」という。)の各事業年度の業務実績に関する評価(以下「年度評価」という。)を適切に行うため、評価の実施に関して必要な事項を定めるものである。

2 評価の目的

年度評価は、法人の業務運営の自主的かつ継続的な見直し・改善を促し、法人の業務の質的向上、業務運営の効率化、透明性の確保に資することを目的として行う。

3 評価の基本方針

年度評価は、法人の中期目標の達成に向けた中期計画の進捗状況を確認する観点から行い、評価に当たっては、総合的かつ効率的に行うこととする。

なお、評価の際は、法人の教育研究の特性や業務運営の自主性・自律性に配慮するとともに、評価を通じて、法人の中期目標の達成に向けた取組状況を市民に分かりやすく示すよう努めるものとする。

4 年度評価の実施時期

年度評価は、当該事業年度終了後、概ね5月以内に実施するものとする。

5 年度評価の実施方法

(1) 評価手法

年度評価は、その目的を効率的かつ効果的に達成するため、法人がその業務実績に基づいて行う自己評価結果を踏まえ、項目別に評価のうえ、中期計画の進捗状況について総合的な評価(全体評価)を行う。

(2) 評価項目

評価項目については、別表1のとおりとする。

(3) 評価基準

評価にあたっては、別表2の取扱いを基本に、取組状況や計画の難易度、外的要因等、それぞれの状況を総合的に勘案して評価するものとする。

(4) 評価の手順

① 項目別評価

ア 法人による実績報告・自己評価

法人は、年度計画記載事項ごと(事業単位)及び評価指標ごと(指標単位)の業務実績(年度計画における各事業の実施状況及び事業の成果に関する指標の達成度)を取りまとめ、(3)に定める評価基準に沿って自己評価を行ったうえ、業務実績報告書を作成し、評価の実施時期の属する年度の6月末日までに評価委員会に提出する。

イ 評価委員会による検証・評価

(ア) 法人の自己評価結果の検証・評価

評価委員会は、法人から提出された業務実績報告書について、法人関係者からのヒアリング等によって検証のうえ、事業単位及び指標単位で(3)に定める評価基準に沿って評価する。

なお、評価委員会は、検証・評価を行ううえで必要がある場合、法人に対して資料の追加提出を求めることができるものとする。

(イ) 大項目別評価

評価委員会は、事業単位及び指標単位評価の結果を踏まえ、別表1に定める大項目ごとに、(3)に定める評価基準に沿って、中期計画の進捗状況を総合的に勘案して評価する。

② 全体評価

評価委員会は、項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の達成に向けた中期計画全体の進捗状況を総合的に勘案して評価する。

(5) 評価書の作成

① 評価書原案の作成及び法人からの意見の聴取

評価委員会は、評価の透明性・正確性を確保するため、(4)に定める手順によって評価した結果をとりまとめ、評価書原案を作成し、法人に提示する。

法人は、評価書原案に対する意見を書面により評価委員会に申し出るものとする。

② 評価書の確定

評価委員会は、評価書原案に対する法人からの意見を踏まえ、必要に応じて法人関係者の説明を受けた後、当該意見の適否を審議し、当該案に修正を加える等により評価書を確定する。

6 評価結果の取扱い

(1) 評価結果の通知及び公表

評価委員会は、評価書を作成したときは、遅滞なく当該評価書を法人及び長岡市長に送付するとともに、長岡市ホームページ等で公表する。

(2) 評価結果の活用・反映

法人は、評価結果を自らの業務運営等の見直しまたは改善に活用・反映させていくものとする。

なお、評価委員会は、評価に際して、過去の評価結果が法人の業務運営に活用・反映されているか確認するものとする。

7 評価方法の継続的な見直し

この要領については、年度評価の実施状況等を踏まえ、必要に応じて見直すものとする。

8 その他

この要領に定めるもののほか、評価の実施に必要な事項は、評価委員会が別に定める。

別表 1: 年度評価における評価項目

評価区分		評価の対象、内容等
項目別評価	事業単位評価	年度計画の第1から第4の最小項目として記載されている各事項の達成状況 ※第5から第9に係る実績については、全体評価の際に参考情報として用いる。
	指標単位評価	年度計画の各数値目標の達成状況
	大項目別評価	事業単位評価及び指標単位評価を踏まえた、中期計画における4つの大項目ごとの進捗状況 第1 教育に関する目標 第2 研究に関する目標 第3 地域貢献に関する目標 第4 業務運営等に関する目標
	全体評価	項目別評価を踏まえた中期計画全体の進捗状況

別表 2: 年度評価における評価基準

評価区分	評価	標語	評価の目安	
項目別評価	事業単位評価	s	年度計画を大幅に上回る	特に優れる若しくは顕著な成果
		a	年度計画を上回る	上回る
		b	年度計画を概ね実施	実施
		c	年度計画を十分に実施せず	下回るもしくは実施が不十分
		d	年度計画を大幅に下回る	特に劣るもしくは実施せず
	指標単位評価		年度計画を大幅に上回る	達成率 100%超かつ顕著な成果
			年度計画を上回る	達成率 100%超
			年度計画を概ね実施	達成率 80%以上 100%以下
			年度計画を十分に実施せず	達成率 60%以上 80%未満
			年度計画を大幅に下回る	達成率 60%未満
	大項目別評価	S	中期計画の進捗は優れて順調	大項目別(4区分)に、中期計画の進捗状況について、事業単位評価及び指標単位評価から総合的に勘案し、評価
		A	中期計画の進捗は順調	
		B	中期計画の進捗は概ね順調	
		C	中期計画の進捗はやや遅れている	
D		中期計画の進捗は遅れている		
全体評価		中期計画の進捗は優れて順調	中期計画全体の進捗状況について、項目別評価から総合的に勘案し、評価	
		中期計画の進捗は順調		
		中期計画の進捗は概ね順調		
		中期計画の進捗はやや遅れている		
		中期計画の進捗は遅れている		